

三内丸山遺跡38

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書12
北盛土(1)—

2012年3月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第519集

三内丸山遺跡38

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書12
北盛土(1)—

2012年3月

青森県教育委員会



旧野球場建設予定地（北東から 白線内が北盛土）



現地説明会の様子（平成6年度 北盛土地区）

口絵 1 北盛土遠景 平成6年度



VIB-95・96 グリッド付近 円筒上層式土器出土状況



人物画土器

口絵2 遺物出土状況と人物画土器

序

青森市に所在する三内丸山遺跡は青森県総合運動公園拡張整備事業に係る新県営野球場建設に先立ち、平成4年度から平成6年度まで県教育委員会が発掘調査を行いました。

調査の結果、本遺跡は縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であることが明らかとなりました。特に大規模な遺構、多種多量の出土遺物から、縄文時代前期中葉から中期にかけて約1500年以上継続して営まれた円筒土器文化を代表する大規模な集落跡であることが判明しました。

本書は北盛土地区にかかる成果の一部をまとめたものですが、今後三内丸山遺跡の解明及び埋蔵文化財の保護と研究に役立てば幸いです。

最後に調査及び本書作成に御尽力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

青森県教育委員会

教育長 橋 本 都

例 言

- 1 本報告書は平成4～6年度に実施した青森県総合運動公園拡張整備事業に係る三内丸山遺跡の発掘調査のうち北盛土の遺構・土器・石器についての報告書である。土・石製品、写真、まとめ等は来年度に刊行予定である。他の遺構の報告については巻末の「特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧」(342頁)を参照されたい。
 - 2 調査の概要については、『三内丸山遺跡X』(青森県埋蔵文化財調査報告書第250集 平成9年度青森県教育委員会)の「第I章 調査に至る経過と調査要項」、「第II章 調査の方法と経過」、「第III章 遺跡の概要」を参照されたい。
 - 3 三内丸山遺跡の遺跡番号は201021番である。
 - 4 挿図の縮尺は、各図に示した。遺物は、土器1/3、剥片石器1/2、礫石器1/3を基本とした。
 - 5 遺構図面の記載にあたっては、土器—P、石器・石—S、ロームブロック—L.B.の略号を用いた。
 - 6 石器の石質鑑定は、国立大学法人 弘前大学大学院 理工学研究科教授 柴 正敏氏に依頼した。
 - 7 遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。
 - (1) 遺構番号は種類毎に通し番号を付し、一部を除いて発掘調査時のものを用いている。
 - (2) 遺構内外の堆積土の注記は、『新版標準土色帖』(小山、竹原1990)を用いた。
 - (3) 原則として、遺物には出土地点、法量及び諸特徴を一覧できる観察表・計測表を付した。
 - (4) 縄文原体は、『日本先史土器の縄紋』(山内清男 1979 先史考古学会)を参考に分類し、記述はそれに従った。ただし、観察表では以下のように省略した。
結節回転文—結回、単軸絡条体○類—単絡○、結束第○種—結束○、多軸絡条体—多軸絡
また表中では、縄文原体の回転文の場合は種類のみ、押圧文(捺糸圧痕・側面圧痕)の場合は種類の後に「押」を付けている。馬蹄形の圧痕については「R馬蹄押」のように表記を分けている。陸帯・貼付帯上の施文文様は「貼」の直後に括弧書きした。
 - (5) 観察表中では、以下の略語で縄文原体以外の土器文様や付着物等を記載している。
竹管状工具による刺突—竹管刺突、半截竹管状工具による刺突—半竹刺突、ヘラ状工具による刺突—ヘラ刺突、折り返し口縁—折返 炭化物付着(部位)—炭(部位)、漆塗布(部位)—漆(部位)、赤色顔料付着(部位)—赤色(部位)。
付着物等の部位については、外面全体—外、内面全体—内、口頸部外面—口外、口頸部内面—口内、胴部外面—胴外、胴部内面—胴内、胴部外面の上半部—胴外上、胴部外面の下半部—胴外下、胴部内面の上半部—胴内上、胴部内面の下半部—胴内下、底部外面—底内、底部外面—底内と略記した。
 - (6) 石質は以下のように略称する。
玉髓—玉、頁岩—頁、玉髓質珪質頁岩—玉珪、珪質頁岩—珪頁、黒曜石—黒、鉄石英—鉄、凝灰岩—凝、砂岩—砂、安山岩—安、流紋岩—流、閃緑岩—閃、緑色細粒凝灰岩—緑細凝、細粒凝灰岩—細凝、溶結凝灰岩—溶凝、軽石—軽、輝緑岩—輝、花崗岩—花、花崗閃緑岩—花閃
- 8 発掘調査によって出土した遺物、実測図、写真等は、現在、青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室が保管している。

9 図中に使用したスクリーントーンは以下のものを表す。



石器磨面



石器敲打痕



石器光沢

10 遺物の分類

(1) 土器

土器は時代ごとに次のように分類した。

第Ⅰ群 縄文時代草創期～早期

第Ⅱ群 縄文時代前期

1類 円筒下層 a 式より古く位置付けられるもの
器群

2類 円筒下層 a 式に位置づけられるもの

3類 円筒下層 b 式に位置づけられるもの

4類 円筒下層 c 式に位置づけられるもの

5類 円筒下層 d 式に位置づけられるもの

さらに2つに細分する 1 d 1 式

2 d 2 式

6類 1～5類で時期を特定できないもの

第Ⅲ群 縄文時代中期

1類 円筒上層 a 式に位置づけられるもの

2類 円筒上層 b 式に位置づけられるもの

3類 円筒上層 c 式に位置づけられるもの

4類 円筒上層 d 式に位置づけられるもの

5類 円筒上層 e 式に位置づけられるもの

6類 1～5類で、時期を特定できないもの

7類 榎林式以前に位置づけられる大木式土器系のもの

8類 榎林式に位置づけられるもの

9類 最花式・中の平Ⅲ式に位置づけられるもの

10類 大木 10 式併行に位置づけられるもの

11類 8～10類で時期を特定できないもの

第Ⅳ群 縄文時代後期

1類 十腰内遺跡第Ⅰ群以前に位置づけられるもの

2類 十腰内遺跡第Ⅰ群に位置づけられるもの

第Ⅴ群 縄文時代晩期

第Ⅵ群 弥生時代

(2) 石器

石器は形態・機能ごとに次のように分類した。

A類 石鏃

a 有茎 T 基のもの

b 有茎 Y 基のもの

c 尖基 #

d 平基 #

e 円基 #

f 凹基 #

g 破損品

B類 石槍

a 無茎のもの

b 有茎 #

C類 石匙

a 縦型のもの（以下の d～g に該当するものを除く）

b 横型のもの（ # ）

c 斜型のもの（ # ）

d 両面加工で石槍状の先端をもつもの

e # 石錐状の #

f 四角形の短辺部分に抉りをもち、長辺部分を

刃部とするもの

g 細部加工がほとんど加えられないもの

h 破損品

D類 石鏝

a 棒状のもの

b つまみがあるもの（以下の c に該当するものを除く）

c 先端のみつくりだしたもの

- d 石織を転用したもの
- E類 石筥
- a 短冊型のもの
- b 楕形 #
- F類 ビエス・エスキーユ
- G類 不定形石器
- a いわゆるスクレイパー類
- b いわゆるR、フレイク
- c いわゆるU、フレイク
- d 石織・石槍・石筥などの未成品ととらえられるもの
- H類 石斧
- a 磨製石斧
- b 打製石斧
- I類 敲磨器類
- a 主に凹のあるもの
- b # 敲打痕 #
- c # 磨痕 #
- J類 半円状扁平打製石器
- K類 挟入扁平磨製石器
- L類 石皿・台石
- M類 石棒類
- a 石棒
- b 石刀
- c a、bの区別のできないもの
- N類 石錘
- O類 石冠
- a 三角柱状もしくは斧上の突出部を持つ磨製石器
- b 北海道式石冠
- P類 石核類
- a 石核
- b 原石
- c 剥片・砕片（剥片石器の製作に関するもの）
- d 剥片・砕片（礫石器の製作・使用に関するもの）
- Q類 その他
- R類 異形石器
- S類 砥石
- a 楕円礫を素材とし、顕著な擦痕をもつもの
- b 扁平あるいは板状の礫を素材とするもの
- c 大型のもの（L類から分離されるもの）
- T類 軽石・軽石製品
- a 使用痕・加工痕の認められないもの
- b 使用痕・加工痕の認められるもの
- U類 角柱状の礫・礫石器
- a 使用痕・加工痕の認められないもの
- b 使用痕・加工痕の認められるもの
- V類 擦切具
- W類 礫・礫片

目 次

口 絵

序

例 言

目 次

第IV章 縄文時代の検出遺構と出土遺物

第9節 北盛土

1. 北盛土の確認と調査の進展	1
2. 北盛土の範囲と層序	1
(1) 北盛土の捉え方と北盛土の範囲	1
(2) 層序と堆積状況	2
3. 他の遺構との重複	19
4. 北盛土出土遺物	21
(1) 土器	21
(2) 石器	189

北盛土出土土器観察表

302

北盛土出土石器観察表

318

特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧（県教委発行分）

342

報告書抄録

345

第IV章 縄文時代の検出遺構と出土遺物

第9節 北盛土

1 北盛土の確認と調査の進展

北盛土は、平成4年度から着手し、先行トレンチでは遺物が多量に包蔵されていることが確認されたため、最初は捨て場として捉えて調査を開始した。翌平成5年度からは本格的な調査を開始した。既に平成4年度の調査において、捨て場VI Iラインより西側で多数の柱穴と大型建物跡が発見されていたため、VI Fラインより西側については住居跡などの遺構精査を主眼として精査を継続していった。同時にVI Fラインより東についても掘り下げを進めた結果、多量の遺物が広範囲に出土する状況が明らかになった。掘り下げに際しては、グリッドラインに沿った土層観察用のベルトを残し、平面的な掘り下げを行った。調査が進展するにつれ、単なる捨て場とは異なる状況が確認され始めた。それらは以下のような状況であった。

- ・一つ一つの層がかなり細かく堆積しており、明確に区分できる。
- ・廃棄と考えられる炭化物層・焼土層などが純粋な層を成している。
- ・上記の層が厚いところで約1.8 m堆積している。

これらの状況から、この捨て場を「盛土」と呼称したのは平成6年度の調査中であった。

平成6年度の調査では引き続き土層の掘り下げを行い、ほぼ全域においてⅢ a層の掘り下げを終了した。同年8月1日には建設工事と発掘調査の中止が決定したことから、10月からは埋め戻し作業を開始し、11月18日をもって平成6年度の発掘調査を終了した（口絵1上の写真は埋め戻す直前の状況である）。現在、北盛土は整備・公開され、VI B -95・96 グリッドで検出した円筒土層 d 式土器の平面的な出土状況（口絵2写真上）を覆屋中にて露出展示している。

2 北盛土の範囲と層序

(1) 盛土の捉え方と北盛土の範囲

遺構としての盛土の捉え方については、南盛土の報告『『三内丸山遺跡 34』 青森県埋蔵文化財調査報告書第463集』でも触れられているが、ここでも記しておくことにする。

北盛土は堆積土層中に炭化物や焼土、二次堆積のローム質土など明らかに自然堆積層とは異なる堆積層で形成されている。盛土として把握したのは、以下の条件によるものである。

- ・炭化物や焼土、二次堆積のローム質土などによる人為的な堆積層であること。
- ・自然的な要因による地形改変の可能性の低い場所が、周辺地形とは異なる状態を示していること。
- ・一定の範囲に限られた区域が、繰り返し継続的に使用されていること。
- ・遺物も多量に含むこと。

などが挙げられる。

北盛土の範囲は調査時において正確に把握できたわけではなく、当時の調査の進行状況などから困難であった。したがって今回の報告では遺物の出土状況や土層の堆積状況などから判断し、北盛土の範囲を1図のように提示した。南北は85ライン以南から105ライン以北の約80m。東西はVI J ～VI I

ライン以東、からVICからV0ライン以西の約30～60mの規模を持ち、95ライン付近で緩く東側に屈曲し、全体としてL字形のような平面形を呈する。占地状況としては、台地平坦面から「北の谷」へ向かう東向きのごく緩い斜面地に存在する。特に南東端では、「北の谷」の谷頭部分を覆うように堆積する。

(2) 層序と堆積時期

北盛土の調査は、ほぼ全面で平面的な掘り下げを行っている。表土除去後、第Ⅱ層を掘り下げた後、第Ⅲ層からはグリッドラインに合わせて土層観察用のベルトを残しながら精査を行った。遺物の取り上げに際しては、主な土器・石器・土製品等の出土地点をトータルステーションを用いて記録し、併せて出土グリッドと層位についても記録している。出土層位については、第Ⅲ層ないし第Ⅲa層・第Ⅲb層などの大別層による取り上げを行った部分と、同一土器型式の平面的な広がりを把握し、上位から第Ⅲa-1・2・・・というように層名を付して取り上げた部分がある（ただし、第Ⅲa-0～5層までは炭化物やローム層などの広範囲に確認できた層を鍵層にして層名を付し遺物を取り上げている）。各細別層の時期についてはもう少し検討しなければならないが、大掴みに層位と土器型式を対応させると右表のようになる。ちなみに、これらの細別層と土層断面とは必ずしも対応していないことを付記しておく。

北盛土の細別層の大まかな時期

細別層名	写真で確認した土器の時期
Ⅲa-0	最花・大木10?
Ⅲa-1	榎林
Ⅲa-2	大木・榎林
Ⅲa-3	榎林?
Ⅲa-4	榎林?
Ⅲa-5	榎林?
Ⅲa-6	上層e
Ⅲa-7	上層d～e
Ⅲa-8	上層c～d
Ⅲa-9	上層b～c
Ⅲa-10	上層a～b?

北盛土の土層堆積状況について説明する。先述のとおり場所により調査の進行状況が異なり、全体的にⅢa層まで掘り下げた調査を中断し、埋め戻している部分が多い。そのため、地山ローム層（第Ⅵ層）まで掘り下げた部分は少ない。ただし、先行したAトレンチなどでは部分的にローム層（第Ⅵ層）上面まで掘り下げているため、まずこの部分で土層の堆積状況を概観する。

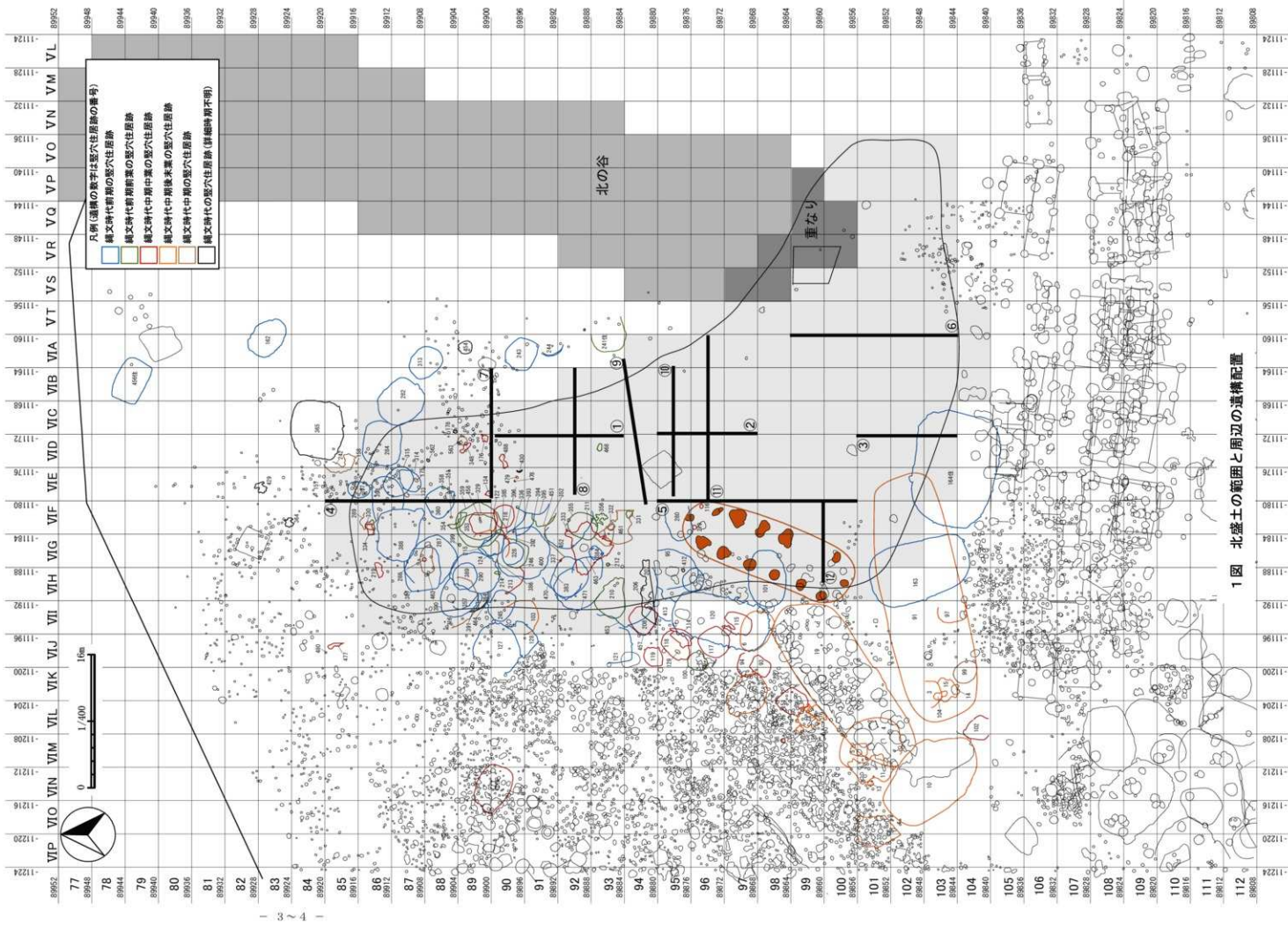
Aトレンチ（土層図は5図に掲載）最下部には一部に第Ⅵ層が確認でき、その上層に第Ⅴ層（漸移層）が、さらに上部には第Ⅳ層（黒色土）が堆積している。第Ⅳ層からは、円筒下層式が少量出土している。土層断面の一部には、これら第Ⅳ～Ⅵ層を掘り込んで堅穴住居跡と見られる遺構が構築されている部分もあり、第Ⅳ～Ⅵ層とこれらの遺構堆積土の上に第Ⅲ層が堆積している。第Ⅲ層は色調や層の堆積状況などにより第Ⅲa層と第Ⅲb層に大別される。第Ⅲa層は、ローム質土・炭化物・焼土などの薄層を主体としたやや明るい色調の土層と捉えられる。第Ⅲb層は第Ⅲa層の下に堆積し、暗褐色のシルト質で炭化物をやや多く含む土層である。第Ⅲa層の堆積時期は、円筒下層d2式～円筒上層a式が堆積の開始期と捉えられ、最花式あたりで終了することが出土遺物から判断できる。第Ⅲb層は円筒下層式全般と捉えられるが、精査した範囲が狭いため詳細な時期は明確ではない。

以上、Aトレンチの土層断面を元に北盛土の土層堆積状況を概観した。北盛土の調査では1図に示した箇所で土層断面図を作成した。以下では各ラインでの堆積状況を説明する。

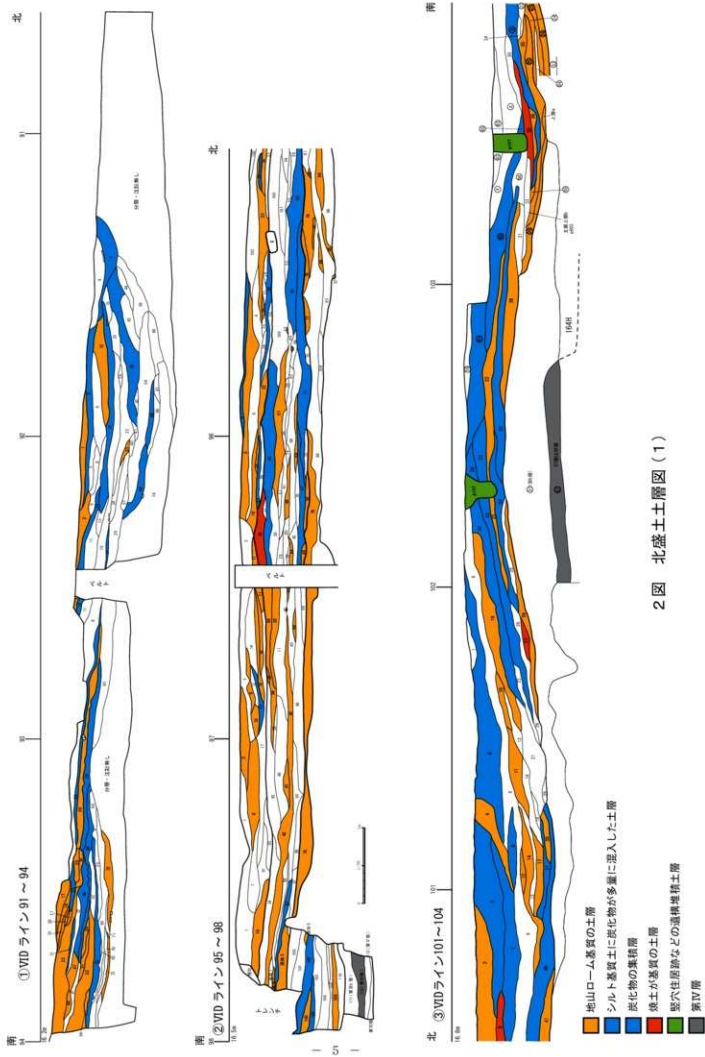
南北の土層断面はⅥA・ⅥD・ⅥFの3つのラインで作図した。

・ⅥDライン（2図）

ⅥDラインは北側（①90～94ライン）・中央（②95～98ライン）・南側（③101～104ライン）



1 図 北盛土の範囲と周辺の遺構配置



2 図 北盛土層図 (1)

の3箇所土層図を作成した。

①の区域ではおおむね第Ⅲ a 層の掘り下げ中に調査を中断している。ロームを基質とした厚さ数 cm ～ 20 cm 程度の土層や、炭化物を多く含む同様の厚さの層が連続的に堆積している様子が見られる。ベルト上面は 94 ライン付近で標高約 16 m、91 ライン付近では約 15 m である。土層の堆積状況を見てもおおむね南から北へ緩やかに傾斜している。ただし、92 ライン付近で土層が北側に向かって上っている部分も見られる。おそらく遺構（竪穴住居跡など）が下位に存在しているためと考えられる。

②の区域では一部で第Ⅵ層まで掘り下げた部分もあるが、おおむね第Ⅲ a 層の途中までで精査を終了している。深く掘り下げた部分で見える限り、第Ⅲ b 層の上面の標高が約 14.8 m、第Ⅵ層の上面が約 14.6 m である。土層断面には厚さ 5 ～ 20 cm 程度の薄層が連続して堆積している様子が見られる。傾斜はあまり無く、ほぼ水平に堆積している。各層の広がりには 1 m に満たない狭い範囲のものから 4 ～ 5 m に及ぶ広いものが見られる。第Ⅲ a 層の厚さは断面側付近で約 1.5 m である。

③の区域では第Ⅲ b 層が厚く確認されており、102 ライン付近では小山のようになっている様子が見られる。第Ⅲ a 層では第 8 層より上位層で層厚がやや厚くなり、その下位層では薄層の累積が見られる。第Ⅲ a 層の上面から時期不明のピットが掘り込まれる部分が 2 箇所確認できる。第Ⅲ b 層上面の標高は最も高いところで 16.1 m、最も低いところで 15.4 m であり、第Ⅳ層の上面は 15.6 m である。104 ラインの南には第 164 号竪穴住居跡があり、竪穴住居内の土層にも盛土と同様の土層が堆積している状況が確認されている。

・ VIF ライン（3 図）

VIF ラインでは盛土最北部の 85 ～ 90 ラインの土層（④）と中央からやや南寄りの 95 ～ 100 ラインの土層断面図を作成した。

④の区域は遺構精査のため第Ⅲ層をかなり掘り下げた状態で作図している。ベルト上面は北から南に向かい緩やかに上っている。第Ⅲ層（注記にはⅢとⅢ b 層という記載がみられる）も同様な傾斜を持ち、その下部に第Ⅳ～Ⅵ層が堆積し、その一部が縄文時代前期の竪穴住居跡により切り込まれている。この部分の第Ⅲ層（Ⅲ a 層）については、薄層の累積が顕著ではない。

⑤の区域では、ほぼ全面で第Ⅳ層上面を確認できる。第Ⅳ層はおおむね平坦に堆積しており、一部で縄文時代前期の竪穴住居跡（第 280 号）により欠失する部分もある。第Ⅳ層の上部には第Ⅲ b 層が堆積する。第Ⅲ b 層は南側付近で薄層の累積する状況がみられるが、10 cm 程度の厚さの層が広い範囲に広がっている様子が確認できる。第Ⅲ b 層の上面はやや凹凸がみられる。第Ⅲ a 層は複雑な堆積状況がみられる。北側と南側の端部付近では薄層の累積が顕著であるが、中央部分ではやや厚く、広がりをもつ土層が多くみられる。このあたりには 2 基の柱穴が断面で確認できる。柱穴の規模はほぼ全体がわかる柱穴 1 が、上端直径約 90 cm、下端直径約 40 cm で、深さは約 1 m である。2 基共に 3 図に示したようなラインで土層の不整合がみられる。1 図の遺構配置図では、この土層断面付近に大型の柱



第 280 号竪穴住居跡と柱穴 2 付近の土層

穴が並ぶ部分が確認できる。その中で橙色で示した柱穴列の北東端部がこの土層断面の柱穴に相当する可能性がある。また、東西土層断面の⑬では、第Ⅲ a 層を大きく掘り込んだ竪穴住居跡と思われる土層が確認でき、そこにもほぼ同規模の柱穴が確認できている。おそらくこれらは同一の大型竪穴住居跡の可能性がある、形状面では既に報告した第 91 号竪穴住居跡と同様の特徴を持つ可能性が高い。⑤の区域の柱穴上端からのびる水平な層理面は床面のラインである可能性が高く、⑤と⑬の土層で見られた床面の標高はほぼ一致している。⑤の土層断面で先述したやや厚く広がりを持つ土層は、この床面より上方に堆積しているため、これらの遺構は薄層の累積する第Ⅲ a 層を掘削して構築されたと考えられる。土層断面中央付近に薄層の累積がみられないのはそのためである。柱穴および竪穴住居跡の時期であるが、土層断面の第 52 層から円筒上層 b 式が出土したという記載があるため、少なくともこれよりは後の時期である。



東西 100 ラインの土層写真(南から)



①のアップ



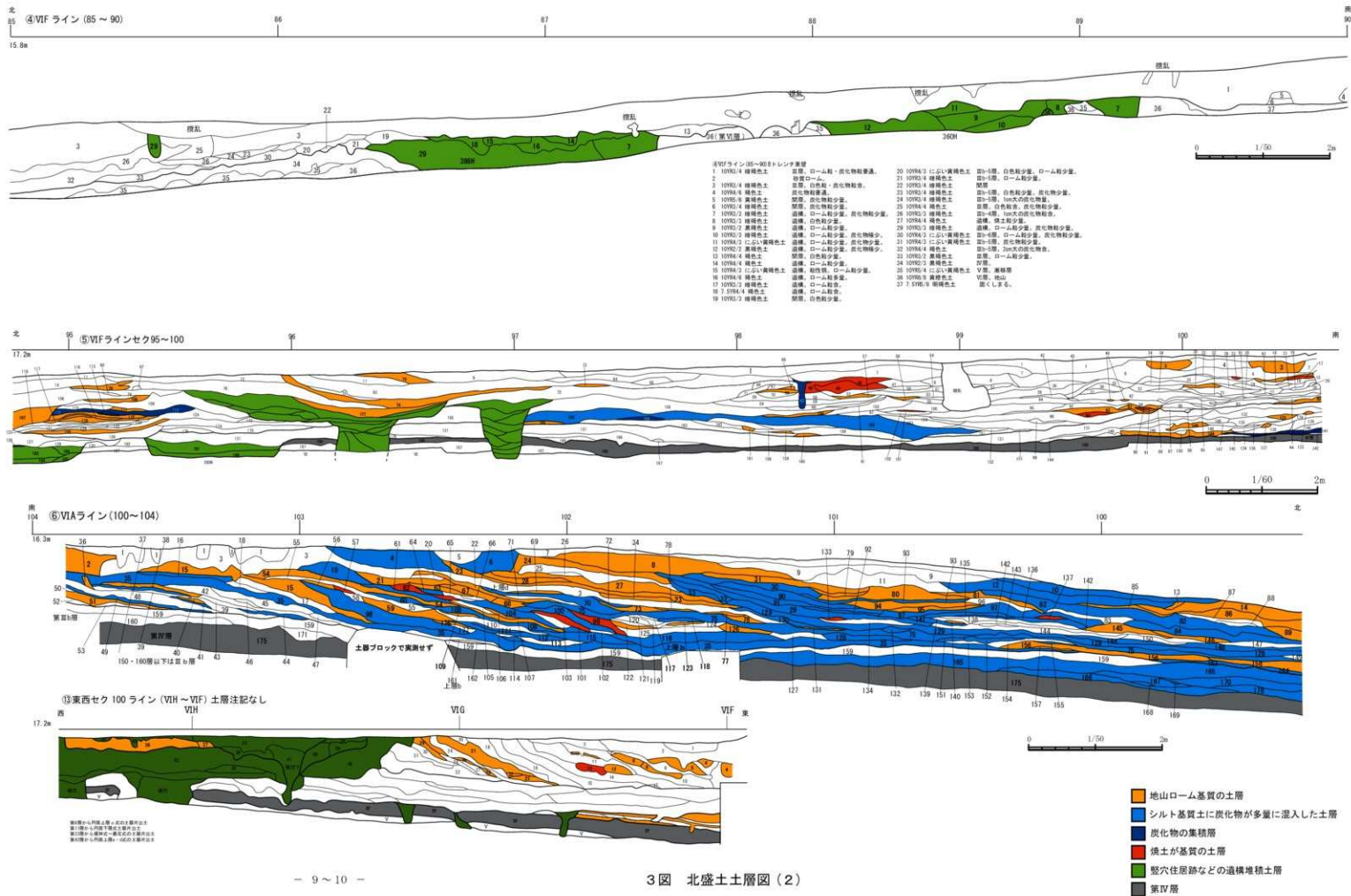
②のアップ

・ⅥAライン (3図)

⑥の区域ではほぼ全体で第Ⅳ～Ⅴ層まで掘削している。土層断面には特に上半の全体に薄層の累積がみられる。この地点は「北の谷」との境界付近であり、ベルト上面は南から北に向かって緩やかに下っている。第Ⅳ層も同様である。第Ⅲ b 層は厚さ 10～20cm で広く堆積する。第Ⅲ b 層の上面からは円筒上層 b 式が出土している。第Ⅲ a 層はロームと炭化物・焼土が混じった薄層からなり、典型的な盛土の土層である。南側から土層が捨てられ始め、北側に範囲が広がっていく様子がよくわかる。東西方向の土層断面は 90、92.5、95.5、96.5、100 の各ラインおよび A トレンチの 5 箇所で作成した。

・90 ライン (4図)

部分的に第Ⅵ層まで掘り下げた部分もあるが、おおむね第Ⅲ a 層で調査を中断している。地山(第Ⅵ層)上面ラインは凹凸を持ち、ⅥF-90 付近を頂点(標高約 14.6 m)に東側へ緩やかに下ってい



宅間Aライン(100-104)

1 10921/2	黄砂	堆積土、砂、炭化物層、炭化物層、砂	90 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
2 10921/3	黄砂	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。	91 10193/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
3 10921/2	黄褐色	D-1層少、D-2層中、D-3層中、炭化物層少、積土粘層多。	92 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多。
4 7 5921/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層、上層のび式土	93 10192/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層少。
5 10921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層少。	94 10194/4	褐色	D-1層多、D-2層少、炭化物層少。
6 7 5921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。	95 10192/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
7 10921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。	96 10194/4	褐色	D-1層中、炭化物層中。
8 10914/4	褐色	D-1層少、D-2層中、D-3層多、炭化物層中、砂粒中、液中	97 10195/6	黄褐色	D-1層中、D-2層多、炭化物層多、積土粘層多。
9 10921/4	黄褐色	D-1層少、炭化物層中、積土粘層多、砂粒中	98 10192/3	黄褐色	D-1層中、炭化物層多、積土粘層多。
10 10921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層、砂粒中	99 5791/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層多、積土粘層多。
11 2 5921/2	黄砂	D-1層多、炭化物層中、積土粘層少。	100 10193/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層多、積土粘層少。
12 10921/2	黄褐色	D-1層少、炭化物層中、炭化物層、砂粒中、砂少	101 5791/4	黄褐色	D-1層中、D-2層多、炭化物層多。
13 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層、砂粒中	102 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層多、積土粘層多。
14 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、積土粘層多。	103 7 5921/3	黄褐色	D-1層少、D-2層中、炭化物層中。
15 10914/4	褐色	D-1層少、D-2層多、炭化物層中、積土粘層多。	104 10921/2	黄褐色	D-1層少、D-2層中、D-3層多、炭化物層中。
16 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。	105 10921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。
17 7 5921/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、積土粘層多。	106 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中。
18 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層中。	107 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。
19 10921/3	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	108 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層多、積土粘層多。
20 7 5921/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層少。	109 10195/6	黄褐色	D-1層中、炭化物層多、積土粘層多。
21 10921/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。	110 10195/6	黄褐色	D-1層中、炭化物層多、積土粘層多。
22 10921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。	111 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
23 10921/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。	112 10192/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層中。
24 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中。	113 10194/4	褐色	D-1層中、炭化物層多、炭化物層少。
25 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。	114 10192/2	黄褐色	D-1層少、炭化物層中。
26 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層少、積土粘層多。	115 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
27 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層中。	116 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
28 10921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。	117 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中。
29 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	118 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。
30 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	119 7 5921/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。
31 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多。	120 10192/4	黄褐色	D-1層少、炭化物層中、積土粘層多。
32 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層多。	121 7 5921/4	黄褐色	D-1層少、炭化物層中。
33 10921/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	122 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。
34 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。	123 7 5791/6	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、積土粘層多。
35 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多。	124 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
36 7 5921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。	125 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。
37 10921/5	黄褐色	ローム層、D-1層少、炭化物層少。	126 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。
38 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	127 10192/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。
39 10192/3	二色い黄褐色	ローム層、炭化物層。	128 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。
40 10921/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	129 10192/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。
41 10914/4	褐色	D-1層少、炭化物層多、積土粘層多。	130 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
42 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	131 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多。
43 7 5921/4	黄褐色	D-1層少、炭化物層中、積土粘層多。	132 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多。
44 10921/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多。	133 2 5791/6	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多。
45 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中。	134 10192/2	黄褐色	D-1層少、炭化物層中。
46 10921/3	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。	135 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多。
47 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、積土粘層中。	136 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多。
48 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層少。	137 10195/6	黄褐色	D-1層多、炭化物層少。
49 10914/4	二色い黄褐色	ローム層、炭化物層。	138 10195/6	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
50 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中。	139 10192/2	黄褐色	D-1層少、炭化物層中。
51 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	140 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
52 7 5921/6	黄褐色	D-1層少、炭化物層粘層多。	141 10192/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層多。
53 10921/6	黄褐色	ローム層、D-1層中、炭化物層。	142 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
54 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層中、積土粘層多。	143 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
55 7 5921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層中、積土粘層多。	144 10194/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。
56 7 5921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層中、積土粘層多。	145 10194/4	褐色	ローム層、炭化物層。
57 5921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層中、積土粘層多。	146 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
58 10914/4	褐色	D-1層少、炭化物層少。	147 7 5921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
59 10921/6	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層中、積土粘層多。	148 10192/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、積土粘層中。
60 10921/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	150 10192/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。
61 10921/3	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	151 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。
62 10921/3	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	152 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中。
63 10916/6	黄褐色	D-1層多、炭化物層少、積土粘層多。	153 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層少。
64 10921/3	黄褐色	D-1層少、炭化物層多。	154 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
65 10921/6	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	155 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
66 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層少。	156 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。
67 10914/4	褐色	ローム層、炭化物層中、積土粘層多。	157 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。
68 10921/6	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。	158 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層中。
69 10921/6	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。	159 10192/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層中。
70 7 5921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	160 10192/2	黄褐色	D-1層少、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。
71 7 5921/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	161 10191/7	黄色	炭化物層、D-1層少。
72 10921/3	黄褐色	D-1層少、炭化物層多、積土粘層多。	162 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
73 10921/4	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、積土粘層多。	163 10192/3	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。
74 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層少。	164 7 5921/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層多。
75 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	165 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。
76 10921/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	167 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多。
77 10914/4	褐色	D-1層多、炭化物層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	168 10194/4	褐色	ローム層、炭化物層多。
78 10921/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	169 10195/6	黄褐色	ローム層、炭化物層多、炭化物層少。
79 10921/2	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	170 10192/2	黄褐色	D-1層多、炭化物層多、積土粘層中。
80 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	171 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
81 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	172 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中。
82 10914/4	褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	173 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
83 7 5921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	174 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
84 7 5921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	175 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
85 10921/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中、炭化物層多、積土粘層多。	176 10194/4	褐色	D-1層多、炭化物層中。
86 10914/4	褐色	ローム層、D-1層少、炭化物層粘層多。	177 10192/4	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
87 10921/3	二色い黄褐色	D-1層少、炭化物層少。	178 10192/1	黄褐色	D-1層中、炭化物層中。
88 10914/4	褐色	D-1層少、炭化物層中。			
89 10192/3	黄褐色	D-1層多、炭化物層中。			

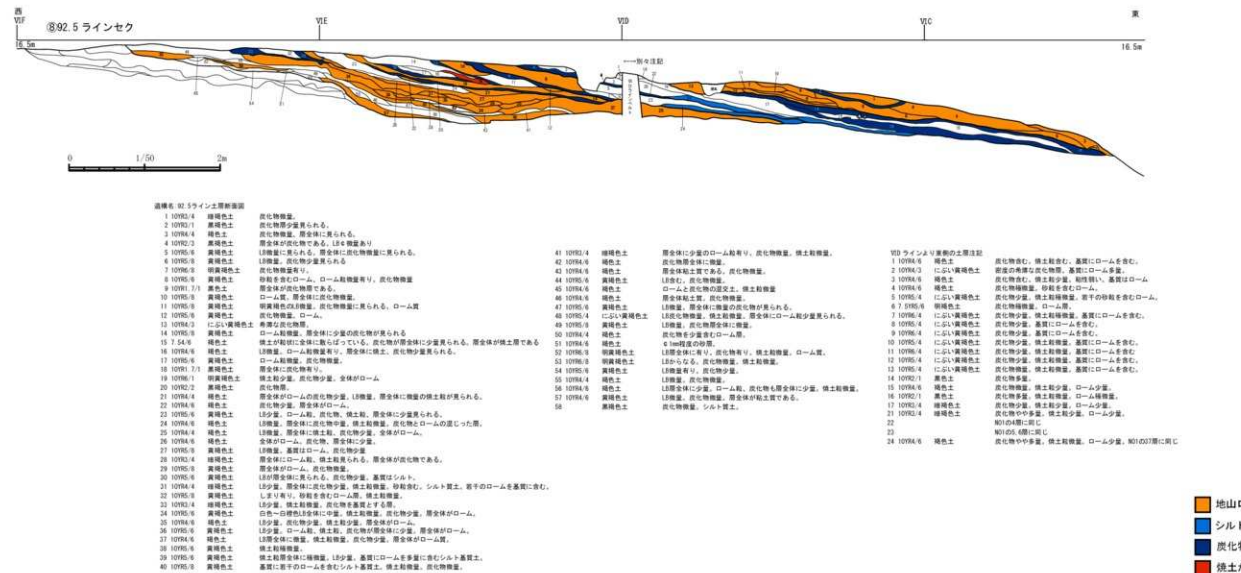
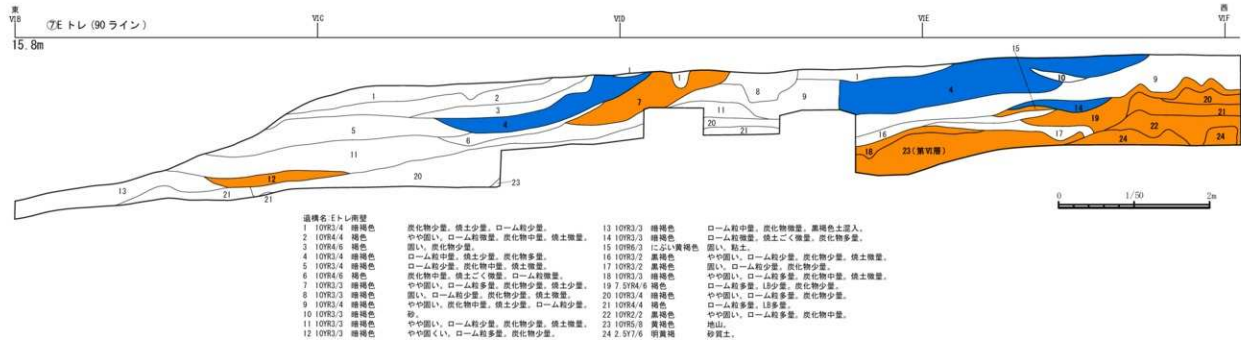
る。土層断面は薄層の累積というよりはある程度の厚みを持った土層があまり広がりを持たずに堆積をしている様子が見える。

・92.5 ライン (4 図)

この区域では最深でベルト上面から 1.7 m まで掘り下げた部分があるが、第 III b 層にも達していないようである。全体的に薄層の累積が観察できる。ローム主体の廃棄土の合間に炭化物層が数層観察できる。ロームの廃棄土層と比べると、炭化物層は広範囲に薄く分布している。VI E ライン付近で土層に不整合が見られる。おそらく下位に堅欠住居跡などの遺構が存在するものと考えられる。

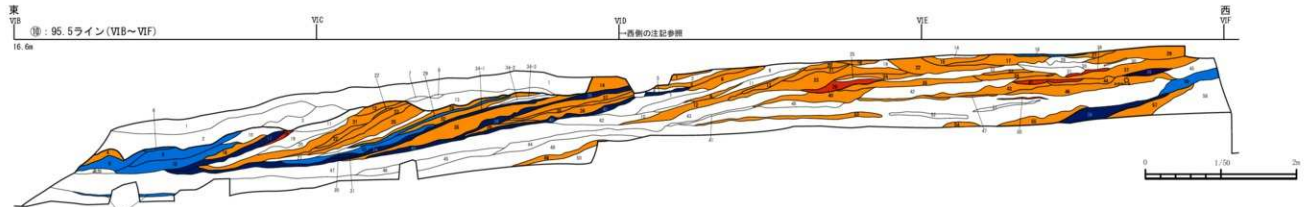
・A トレンチ (5 図)

この区域では第 VI 層上面まで掘り下げた部分が多い。VI F ラインのベルト上面の標高は 16.7 m で

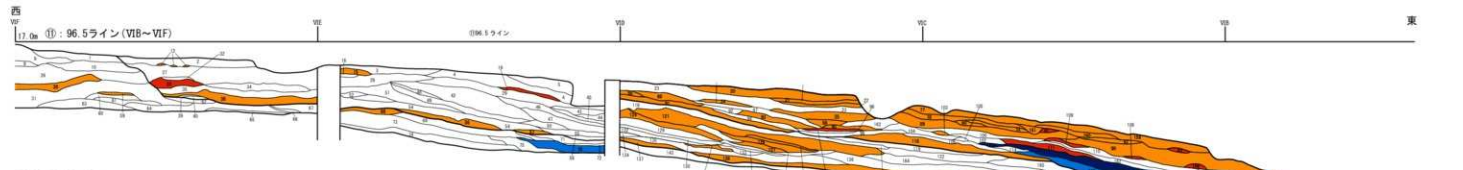


4 図 北盛土土層図 (3)

- 地山ローム基質の土層
- シルト基質土に炭化物が多量に混入した土層
- 炭化物の集積層
- 焼土が基質の土層
- 整住居跡などの遺構堆積土層
- 第四層



西		東	
層番号	説明	層番号	説明
1	10926E 二つ山噴出物 礫層	31	10922E 礫層性土
2	10926E 二つ山噴出物 礫層	32	10922E 礫層性土
3	10926E 二つ山噴出物 礫層	33	10922E 礫層性土
4	10926E 二つ山噴出物 礫層	34	10922E 礫層性土
5	10926E 二つ山噴出物 礫層	35	10922E 礫層性土
6	10926E 二つ山噴出物 礫層	36	10922E 礫層性土
7	10926E 二つ山噴出物 礫層	37	10922E 礫層性土
8	10926E 二つ山噴出物 礫層	38	10922E 礫層性土
9	10926E 二つ山噴出物 礫層	39	10922E 礫層性土
10	10926E 二つ山噴出物 礫層	40	10922E 礫層性土
11	10926E 二つ山噴出物 礫層	41	10922E 礫層性土
12	10926E 二つ山噴出物 礫層	42	10922E 礫層性土
13	10926E 二つ山噴出物 礫層	43	10922E 礫層性土
14	10926E 二つ山噴出物 礫層	44	10922E 礫層性土
15	10926E 二つ山噴出物 礫層	45	10922E 礫層性土
16	10926E 二つ山噴出物 礫層	46	10922E 礫層性土
17	10926E 二つ山噴出物 礫層	47	10922E 礫層性土
18	10926E 二つ山噴出物 礫層	48	10922E 礫層性土
19	10926E 二つ山噴出物 礫層	49	10922E 礫層性土
20	10926E 二つ山噴出物 礫層	50	10922E 礫層性土
21	10926E 二つ山噴出物 礫層		
22	10926E 二つ山噴出物 礫層		
23	10926E 二つ山噴出物 礫層		
24	10926E 二つ山噴出物 礫層		
25	10926E 二つ山噴出物 礫層		
26	10926E 二つ山噴出物 礫層		
27	10926E 二つ山噴出物 礫層		
28	10926E 二つ山噴出物 礫層		
29	10926E 二つ山噴出物 礫層		
30	10926E 二つ山噴出物 礫層		



西		東	
層番号	説明	層番号	説明
1	10926E 二つ山噴出物 礫層	31	10922E 礫層性土
2	10926E 二つ山噴出物 礫層	32	10922E 礫層性土
3	10926E 二つ山噴出物 礫層	33	10922E 礫層性土
4	10926E 二つ山噴出物 礫層	34	10922E 礫層性土
5	10926E 二つ山噴出物 礫層	35	10922E 礫層性土
6	10926E 二つ山噴出物 礫層	36	10922E 礫層性土
7	10926E 二つ山噴出物 礫層	37	10922E 礫層性土
8	10926E 二つ山噴出物 礫層	38	10922E 礫層性土
9	10926E 二つ山噴出物 礫層	39	10922E 礫層性土
10	10926E 二つ山噴出物 礫層	40	10922E 礫層性土
11	10926E 二つ山噴出物 礫層	41	10922E 礫層性土
12	10926E 二つ山噴出物 礫層	42	10922E 礫層性土
13	10926E 二つ山噴出物 礫層	43	10922E 礫層性土
14	10926E 二つ山噴出物 礫層	44	10922E 礫層性土
15	10926E 二つ山噴出物 礫層	45	10922E 礫層性土
16	10926E 二つ山噴出物 礫層	46	10922E 礫層性土
17	10926E 二つ山噴出物 礫層	47	10922E 礫層性土
18	10926E 二つ山噴出物 礫層	48	10922E 礫層性土
19	10926E 二つ山噴出物 礫層	49	10922E 礫層性土
20	10926E 二つ山噴出物 礫層	50	10922E 礫層性土
21	10926E 二つ山噴出物 礫層		
22	10926E 二つ山噴出物 礫層		
23	10926E 二つ山噴出物 礫層		
24	10926E 二つ山噴出物 礫層		
25	10926E 二つ山噴出物 礫層		
26	10926E 二つ山噴出物 礫層		
27	10926E 二つ山噴出物 礫層		
28	10926E 二つ山噴出物 礫層		
29	10926E 二つ山噴出物 礫層		
30	10926E 二つ山噴出物 礫層		

6 図 北盛土層図 (5)

- 地山ローム質の土層
- シルト質土に炭化物が少量に混入した土層
- 炭化物の集積層
- 俵土が基質の土層
- 窪住居層などの遺構堆積土層
- 炭IV層

ある。ベルト上面はそこから東に向かって緩やかに下っている。第VI層上面はVI Fラインで約15.2 m、土層断面東端では13.9 mである。第V層と第IV層は第VI層の上にそれぞれ20 cm程度の層厚で堆積している。第IV～VI層は、3箇所縄文時代の竪穴住居跡の掘削により欠失している。竪穴住居跡の掘削はその後の土層の堆積状況に影響を与えており、竪穴住居跡の上位層はその両端の土層に比べて落ちこんでいる。竪穴住居跡の上には第III b層（第118層より下位）が堆積している。第III b層は厚さが概ね10～20 cmで広い範囲に分布している。第III a層は特に上半の第III a-5層（第28・67・68・69層より上位で第33層より下位。おおむね榎林式期の土層）上位層で薄層の累積が顕著である。第III a-5層とその下位層では、VI Dライン付近で傾斜が大きく変化している部分があるが、これは掘削による不整合ではなく、先述の竪穴住居跡の掘削による影響と考えられる。

・95.5ライン（6図）

この区域では第III b層上面付近まで掘り下がった状態と考えられる。ベルト上面はVI Fライン付近で標高16.5 m、VI Bライン付近で15.4 mである。第47層よりも上位では薄層の累積が顕著である。VI Bライン付近には、現在遺跡内で露出展示を行っている円筒上層d式の集中的な土器出土状況が見られる。したがって第47層は上層d式よりも後の堆積と考えられる。

・96.5ライン（6図）

この区域は第III b層上面あたりまで掘り下がった状態と考えられる。ベルト上面の標高はVI Fラインで約17 m、ベルト東端付近で14.6 mである。全体に薄層の累積が見られる。VI FラインとVI Eラインの真ん中あたりで土層に不整合が見られる。これが遺構などの掘削に伴うものかは不明である。95.5ラインと同様、遺構展示部分が土層断面に引っかかっており、第153層の上面付近で上層d式がまとまって出土している。

ここまで土層断面の説明を行ってきた。1図の北盛土の範囲図を見ても明らかであるが、VI Fラインが盛土のほぼ中心ラインであると考えられ、特に100～96ライン付近で標高約17 mと北盛土の最高点となるようである。東西の土層断面では、VI Fラインから東側に緩やかに傾斜している状況が見られた。南北方向の断面では、90ラインの北側で南から北へ傾斜する状況が見られた。VI Aラインから東側は北の谷の谷頭となっており、地山が北の谷へ向かって傾斜しているため、盛土断面にみられる土層も北側に傾斜している。また、北盛土下部の地山は、南端部で標高約15 m、Aトレンチ西端で標高約15 m、VI F-89グリッド付近で標高約15 m、VI F-85グリッド付近で標高約14 mとなっており、おおむね標高15 mの平坦地から東側（北の谷側）に向かって緩やかに下る地形であると考えられる。

堆積土層の内容をみると、第III a層はおおよその区域でもローム質土層や炭化物、焼土等の薄層の累積が顕著に認められるが、④や⑦といった90ラインより北側の地域では、薄層の累積が顕著ではなく、細かく分層できない暗褐色の第III a層が堆積する様子が観察された。土層の廃棄については、土層断面を見る限り、おおむね西から東へ盛土が広がっていく様子が見てとれる。また、南北方向に関しては土層断面のみでは判然としない部分があるため不明である。

3. 他の遺構との重複

北盛土の周辺および範囲内からは竪穴住居跡、埋設土器などが検出された。竪穴住居跡については

盛土との重複関係が不明なものも多いが、その中には前期の堅穴住居跡が多数含まれるため、これらは盛土堆積以前の構築と判断できる。また、VI Fライン南側(⑤)では盛土堆積土中に柱穴掘り方が2箇所確認できる。また、100ライン(⑬)では大型の堅穴住居跡と見られる遺構の掘方が確認できた。これらの遺構は、ローム・炭化物などからなる薄層が累積する第Ⅲa層を掘り込んで構築されているところが注目される。遺構配置図を見ると、付近には北東～南西方向に2列の柱穴列(橙色で表示)が見られ、ちょうどこれらの柱穴の付近に達しているのが確認できるため、調査段階では堅穴住居跡として認識されていない大型の堅穴住居跡の存在を想定できる。柱穴の規模や、柱穴の並びな



北盛土写真(直上から撮影)平成6年度

どを見る限り、おそらく第19・91号住居跡などの大型堅穴住居跡(複林式～大木10式並行期)の主柱穴と同様なものと考えられる。土層断面にあらわれた遺構も、円筒上層b式が出土する土層を掘り込んでいるため、少なくとも上層b式以後の堅穴住居跡であることは間違いない。今後、関係する柱穴の出土遺物などを精査する必要がある。埋設土器は主に北盛土北半部周辺にまとまって約506基が検出された。土器型式は円筒下層式から大木10式並行期にいたる。時期が分かるものの土器型式ごとの数量を右表に示した。時期が分かるものとしては中期前半期(円筒上層a～c式)がもっとも多い。また、中期前葉期から中期後葉期へなるにつれ北側に分布域が移動している様子もうかがえる。

北盛土についてこれまで記述してきたが、各層の時期的な問題は不明な部分が多い。次年度の報告で出土遺物との整合性を取りながら北盛土の成り立ちや周辺の遺構の変遷などについて整理する予定である。

4. 北盛土出土遺物

(1) 土器

北盛土は面的な調査が行われ、膨大な出土土器破片はプラスチックのトロ函 7693 箱を数えた。平成 23 年 12 月時点で、1715 個の土器の接合・復元が完了しており、ここでは復元土器を中心に実測図と拓本を掲載する。

本章第 9 節 2 の北盛土の土層の記述に詳しいが、本報告書では北盛土遺構の第Ⅲ a 層と第Ⅲ b 層の遺物を北盛土出土遺物と扱い報告することとした。第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ層は、遺構外出土遺物として、今後報告書を刊行する予定である。

資料化したものに限れば、概ねⅢ b 層で円筒下層式土器、第Ⅲ a 層で円筒上層式土器の出土が見られる。一部、細分層を設けた部分・区域では、特定の型式がまとまる傾向が見られるが、北盛土は広大であり、型式学的に提示し全体の型式学的特徴を示すこととする。

前期中葉以降（円筒下層式土器）

北盛土第Ⅲ b 層から出土した土器はおおむね円筒下層式に属している。

第Ⅱ群 1 類、円筒下層 a 式に含まれるもの

円筒下層 a 式土器は 7 図～8 図 1～6、8 図-8、58 図-1, 2, 5, 6 が該当する。器形はバケツ形を呈し、器高が低いものが多い。口縁部は直線的に立ち上がるものと外反するものがある。口縁部には山形の波頂部がみられるものもある。胴部文様は RLR の複節縄文が多いが、結束第 1 種の羽状縄文が施されるものもある。

1. 口縁部に結節回転文が施され、頸部に隆帯がないもの（8 図-1～3, 58 図-1, 2）

口縁部に結節回転文が施され、頸部区画に隆帯を有しないものである。口唇部に縄文原体を押圧するものがあるが、口縁部上下には区画としての横位の縄文原体押圧はない。

2. 口縁部に結節回転文が施され、頸部に隆帯がつけられるもの（7 図-1, 8 図-4, 5）

口縁部に結節回転文が施され、頸部区画として隆帯がつけられるもので、隆帯上には回転縄文や縄文押圧が施される。隆帯は幅が広く厚みもある。口縁部上下には結節回転文を挟むように縄文押圧が施されるものがある。

3. 口縁部に単軸絡条体 5 類が施され、頸部に隆帯がないもの（58 図-6）

口縁部に単軸絡条体 5 類が施され、頸部区画に隆帯を有しないものである。胴部には RLR の縄文が施される。

4. 口縁部に縄文原体の押圧が施されるもの（8 図-6, 8）

口縁部に RL, LR の縄文原体が 2 本押圧されるものである。胴部には RLR の縄文が施される。平口縁と波頂部を有するものがある。

第Ⅱ群 2・3 類、円筒下層 a・b 式に含まれるもの

円筒下層 a・b 式としたものは 8 図-7、9 図-1, 2, 4, 10 図-1～4, 35 図-1, 2, 4, 5, 36 図-2, 37 図-1～3, 41 図-3, 42 図-1, 43 図-2, 44 図-4 である。第Ⅱ群 1 類の円筒下層 a 式よりもいくぶん器形が縦長の筒形を呈する。口縁部が直線的に立ち上がるものと外反するも

のがあるが、直線的に立ち上がるもののほうが多い。

1. 口縁部に縄文原体の押圧が施されるもの (8図-7)

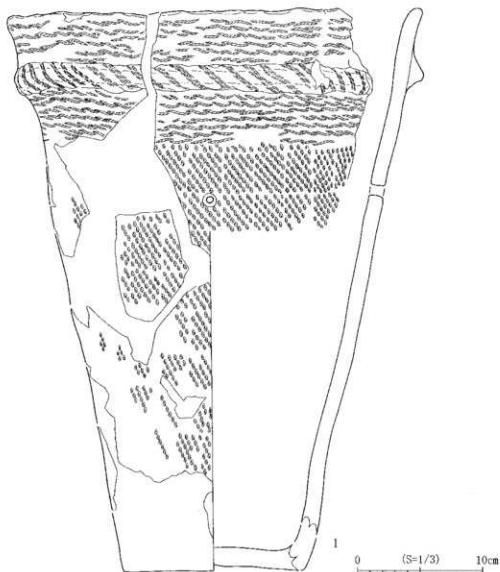
口縁部に縄文原体の押圧が施されるものである。胴部にはRLRの縄文が施文される。波頂部を有する。

2. 口縁部文様帯に縄文が施されるもの (9図-1, 2, 4, 10図-1~4)

口縁部文様帯に縄文が施されるもので、2段、3段の縄文がみられる。2段はLR、3段はRLRが主体となっている。頭部には隆帯のあるものとなないものがあり、隆帯のないものは縄文原体の押圧で口縁部と胴部の区画が施される。口縁部直下に横位の縄文原体押圧が施されるものとなないものがある。波頂部を有する口縁部と平坦のものがある。胴部には縄文が施されるもののほかに単軸絡条体1類が施されるものがある。

3. 単軸絡条体5類が施されるもの (35図-1, 2, 4, 5, 36図-2, 37図-1~3,)

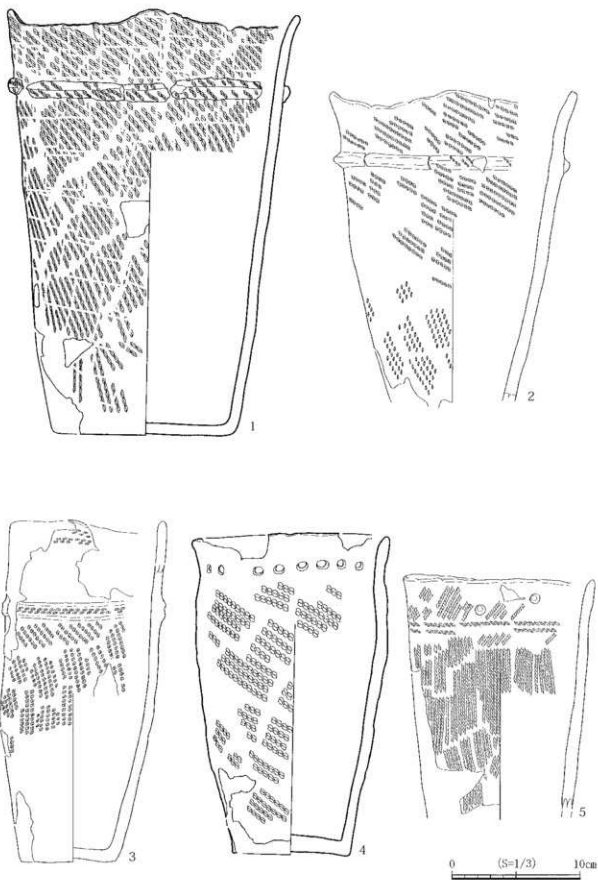
口縁部に単軸絡条体5類が施されるものである。頭部への区画としての文様のないもの、隆帯の巡



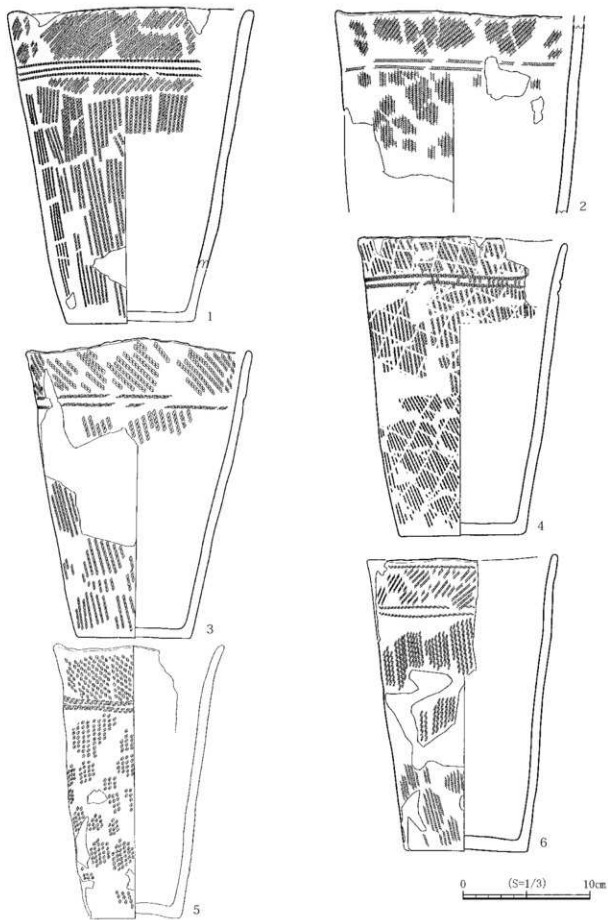
7図 縄文土器 (1)



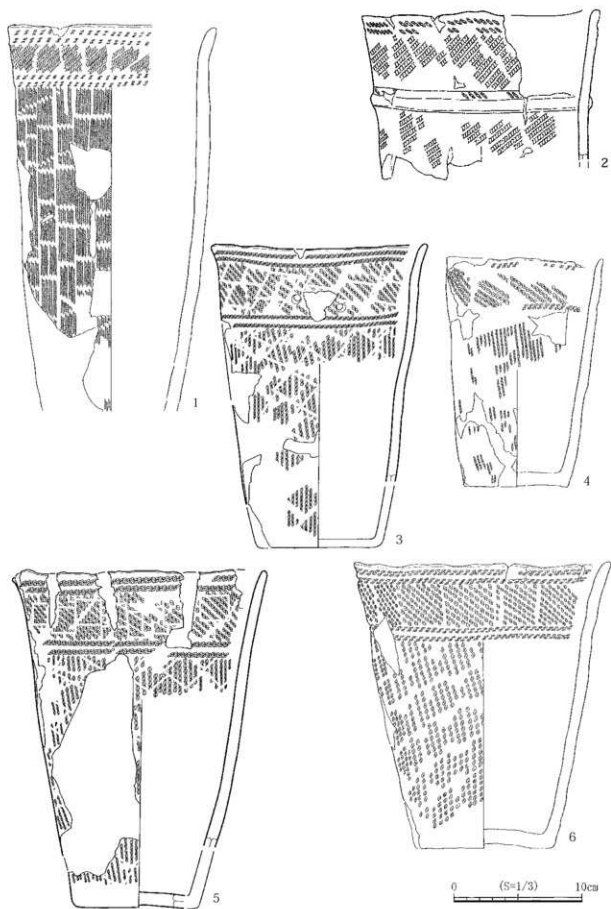
8圖 縄文土器 (2)



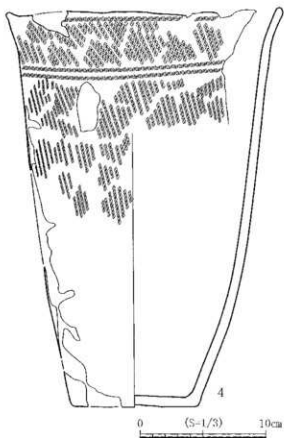
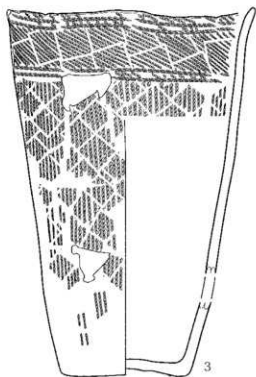
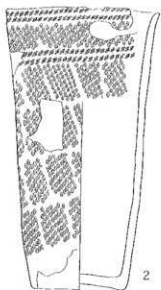
9圖 縄文土器 (3)



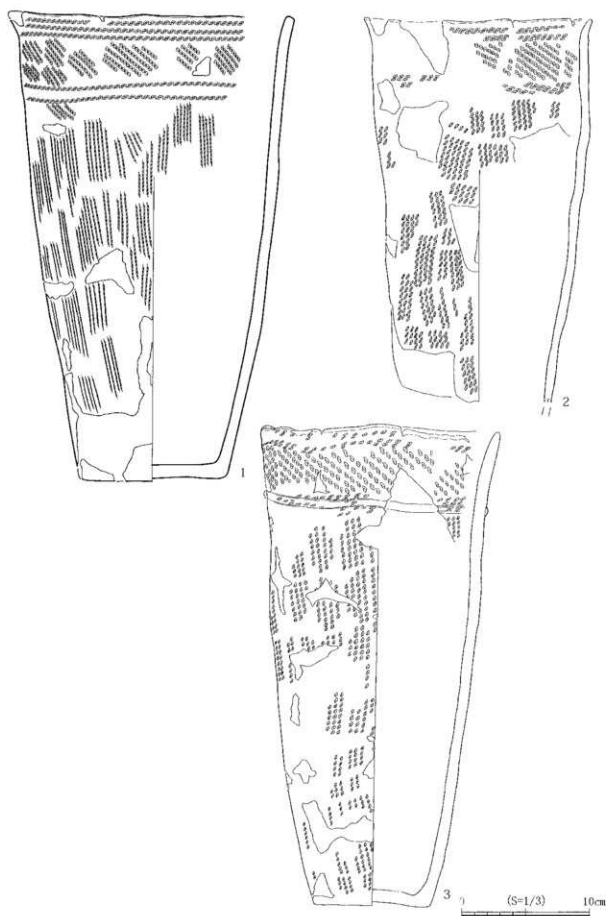
10圖 縄文土器 (4)



11圖 縄文土器 (5)



12圖 縄文土器 (6)



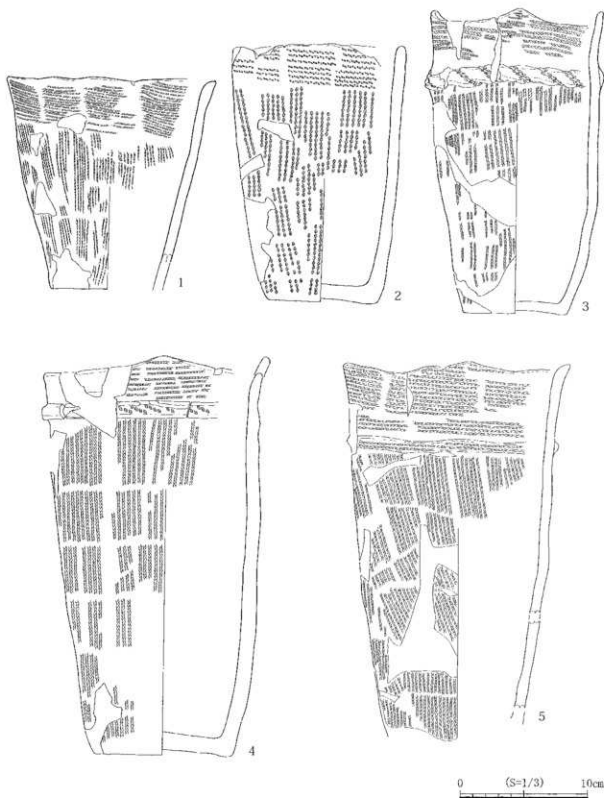
13圖 縄文土器 (7)



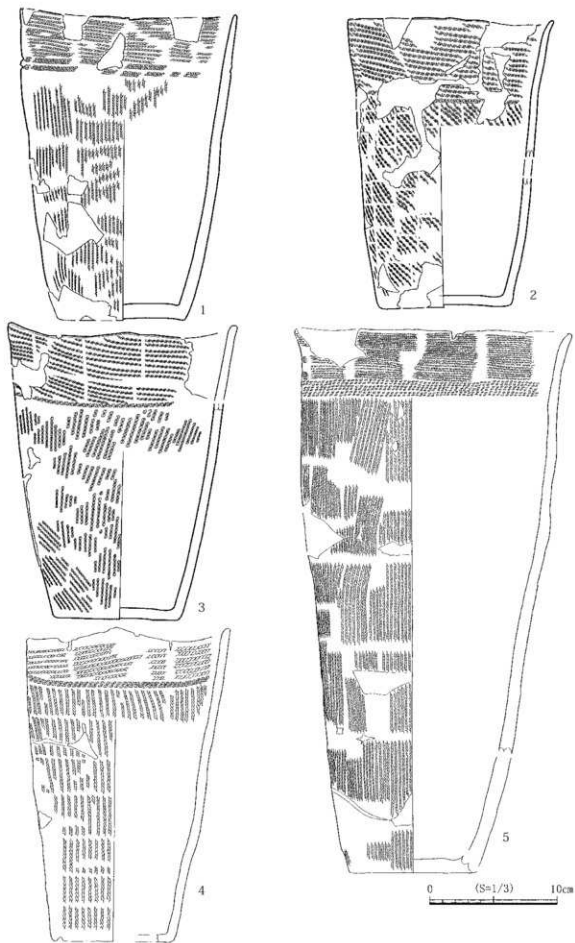
14圖 縄文土器 (8)



15圖 縄文土器 (9)



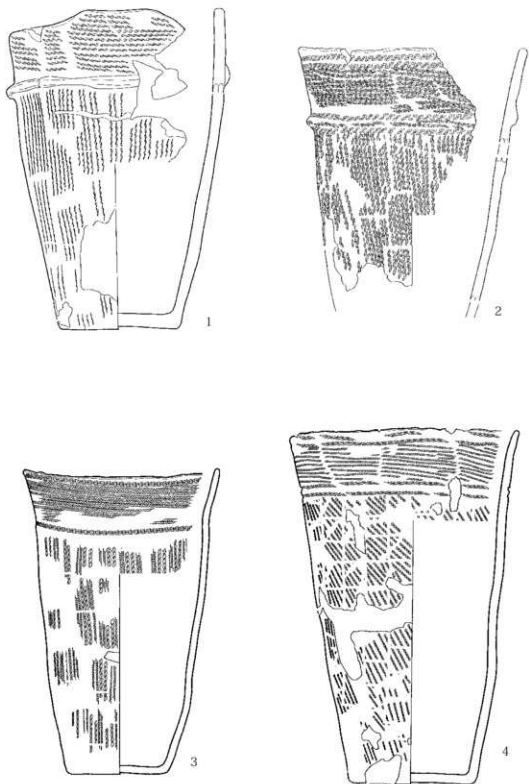
16図 縄文土器 (10)



17図 縄文土器 (11)

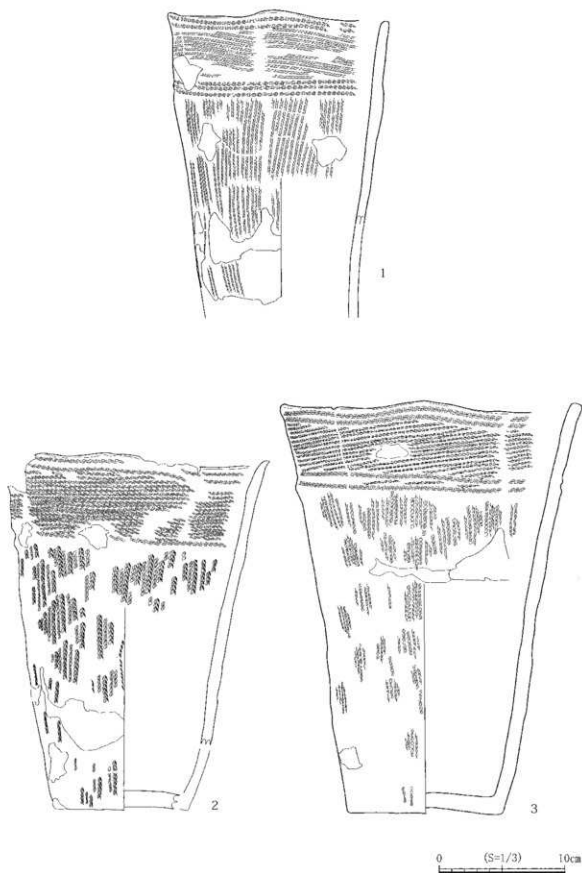


18圖 縄文土器 (12)

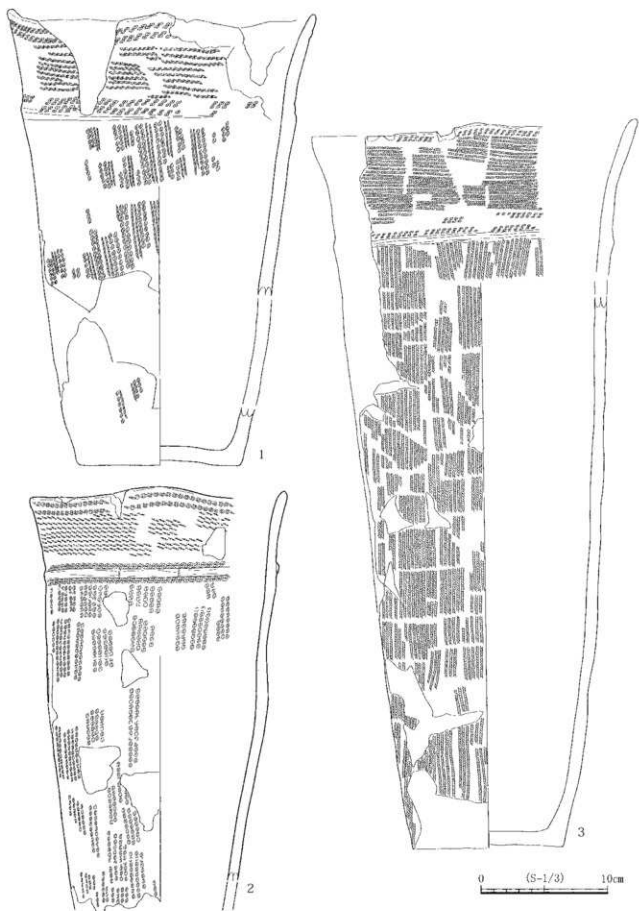


0 (S-1/3) 10cm

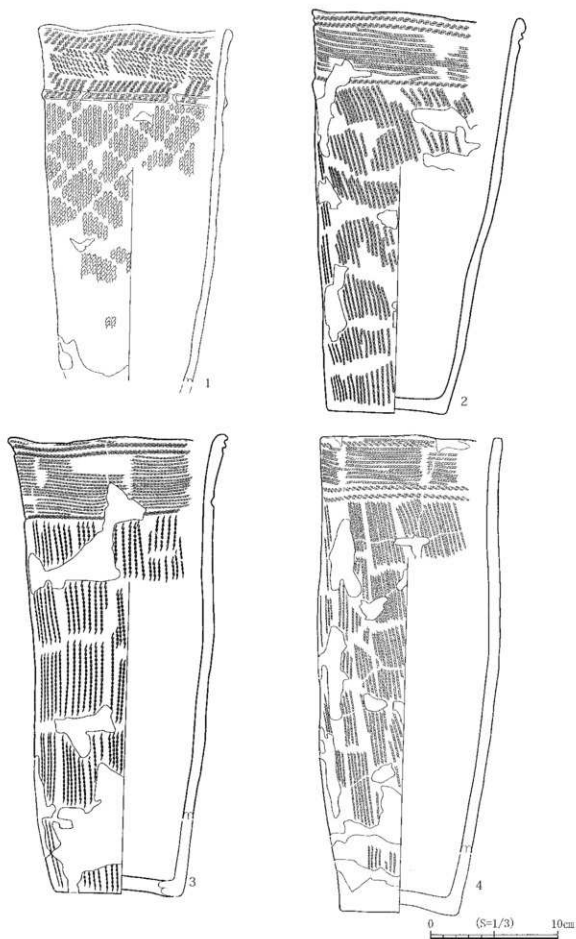
19圖 縄文土器 (13)



20図 縄文土器 (14)



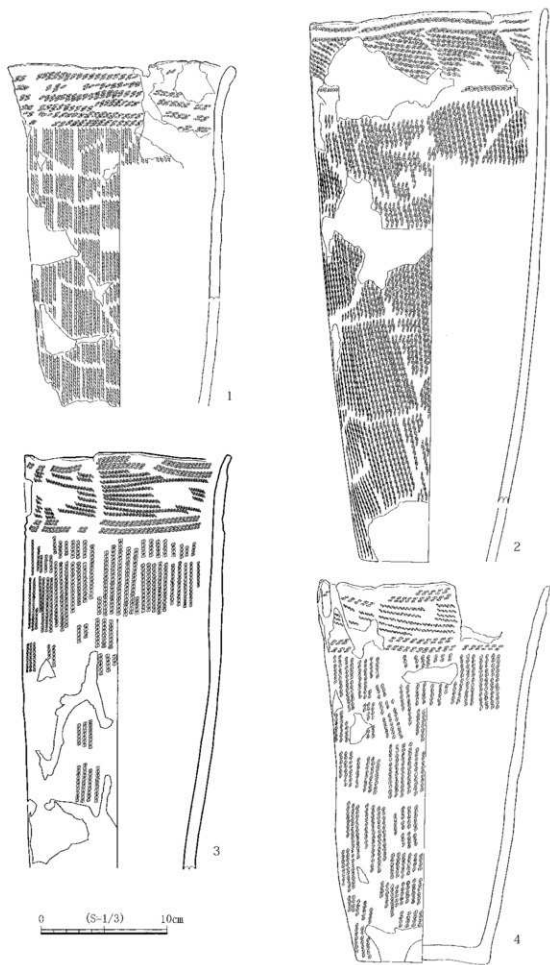
21図 縄文土器 (15)



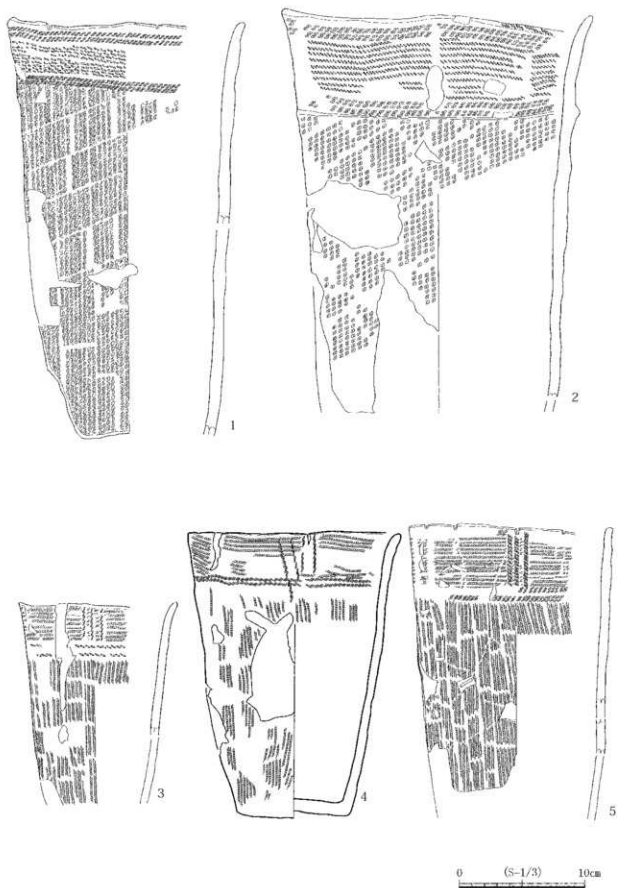
22図 縄文土器 (16)



23図 縄文土器 (17)



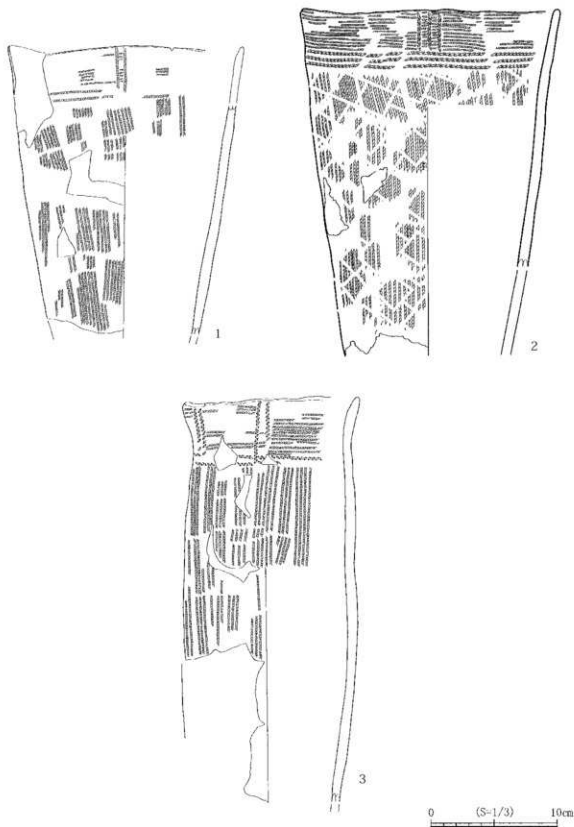
24図 縄文土器 (18)



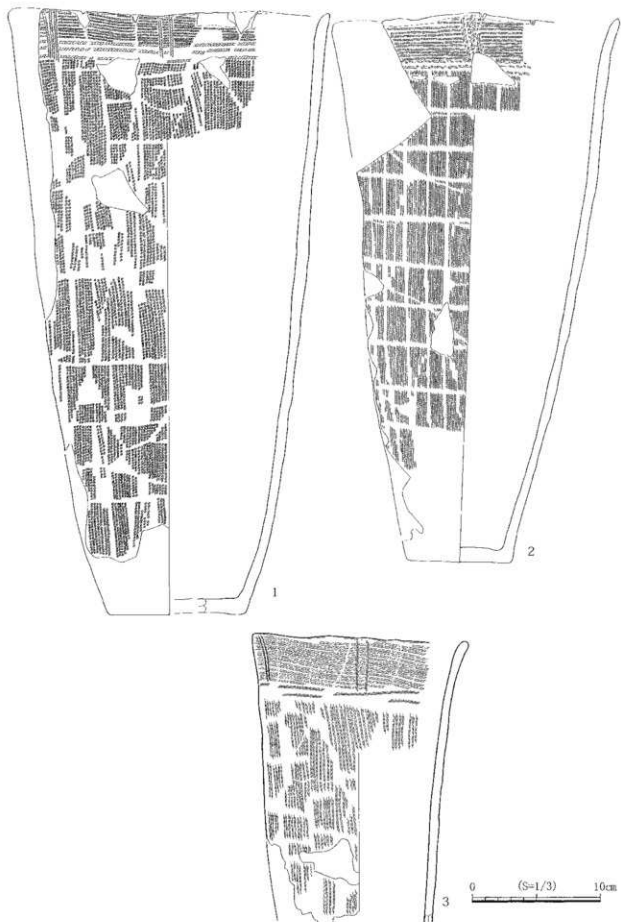
25図 縄文土器 (19)



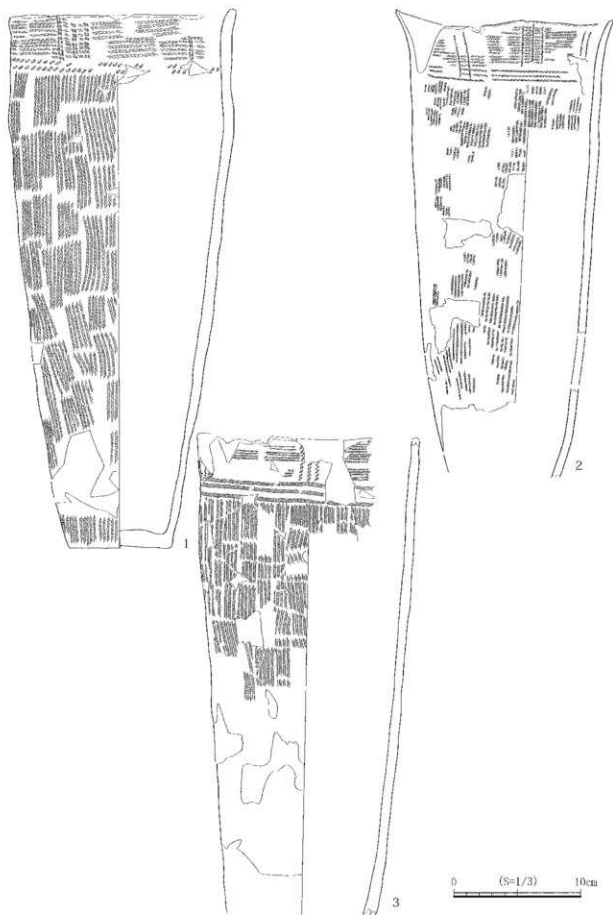
26図 縄文土器 (20)



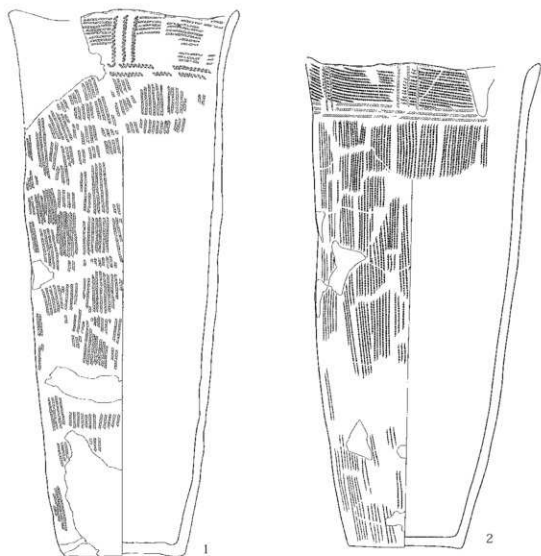
27図 縄文土器 (21)



28図 縄文土器 (22)

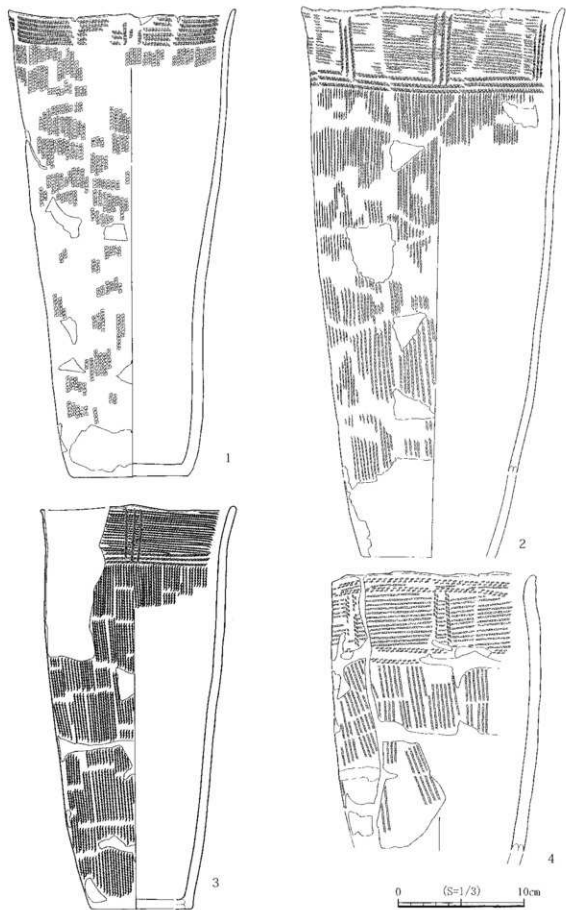


29図 縄文土器 (23)

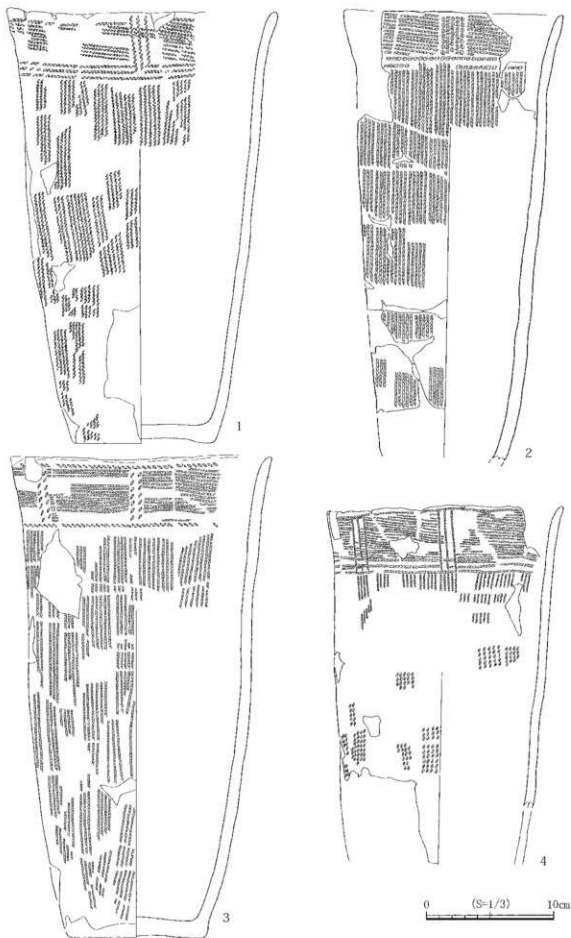


0 (S-1/3) 10cm

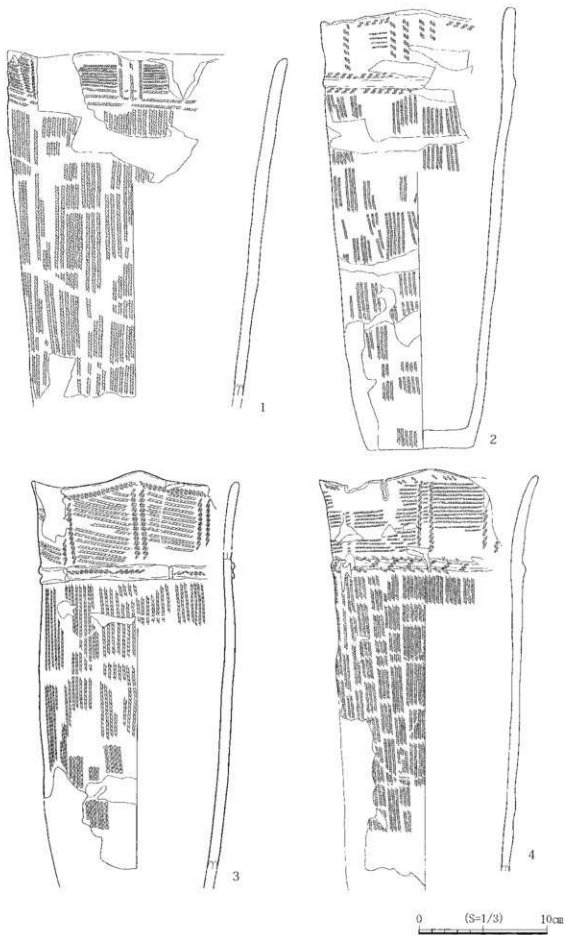
30図 縄文土器 (24)



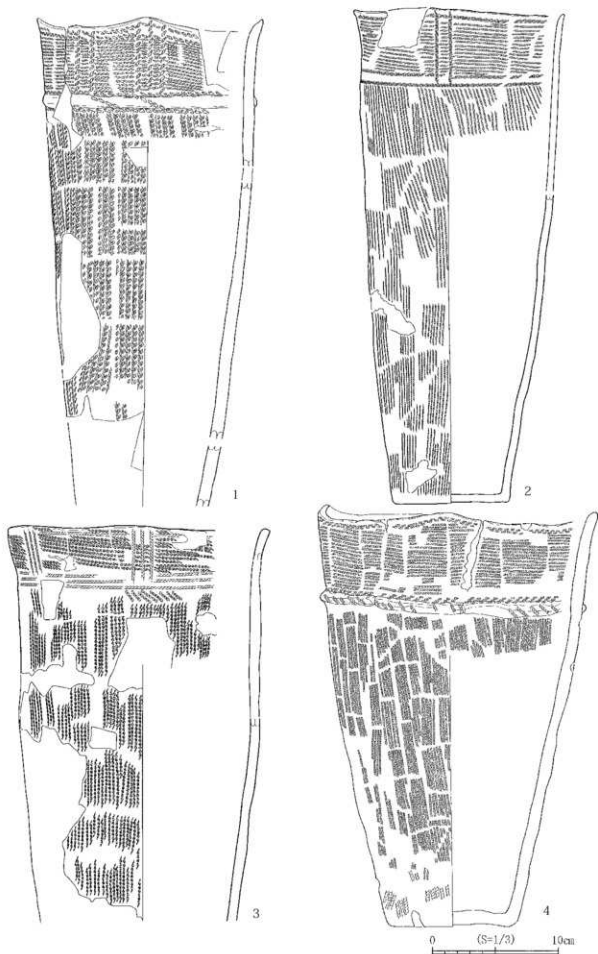
31図 縄文土器 (25)



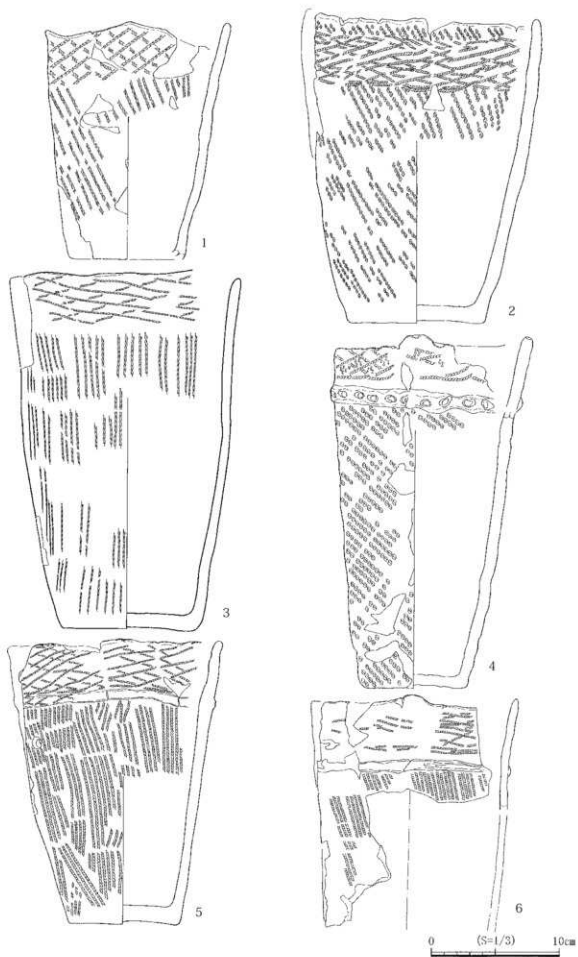
32図 縄文土器 (26)



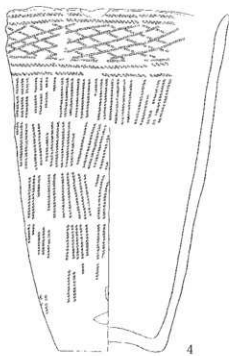
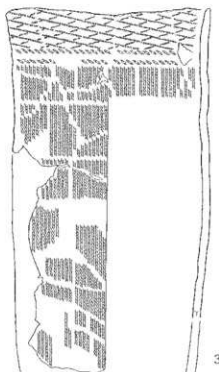
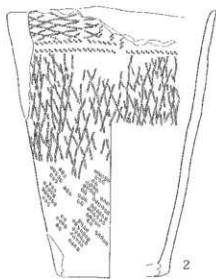
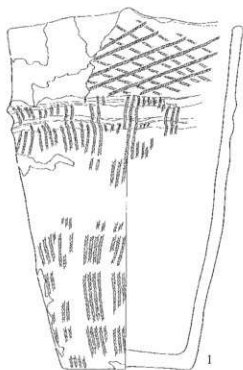
33図 縄文土器 (27)



34図 縄文土器 (28)



35図 縄文土器 (29)

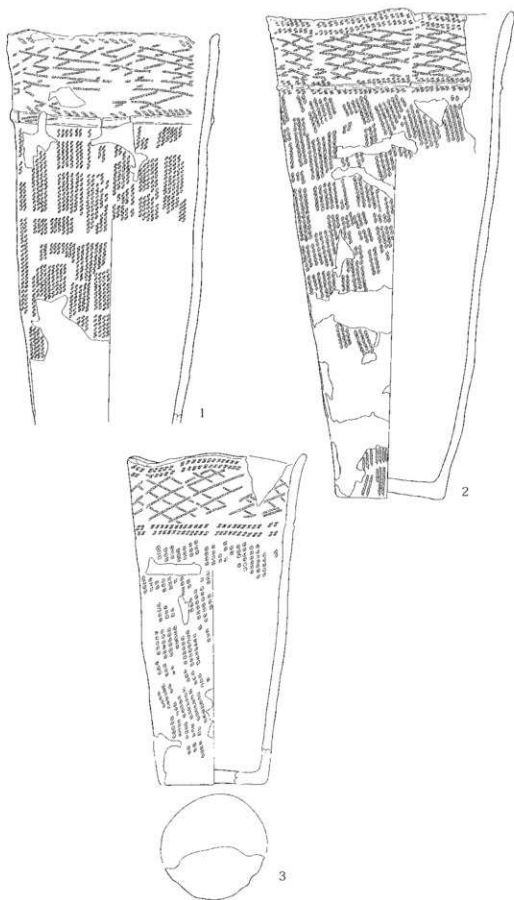


0 (S-1/3) 10cm

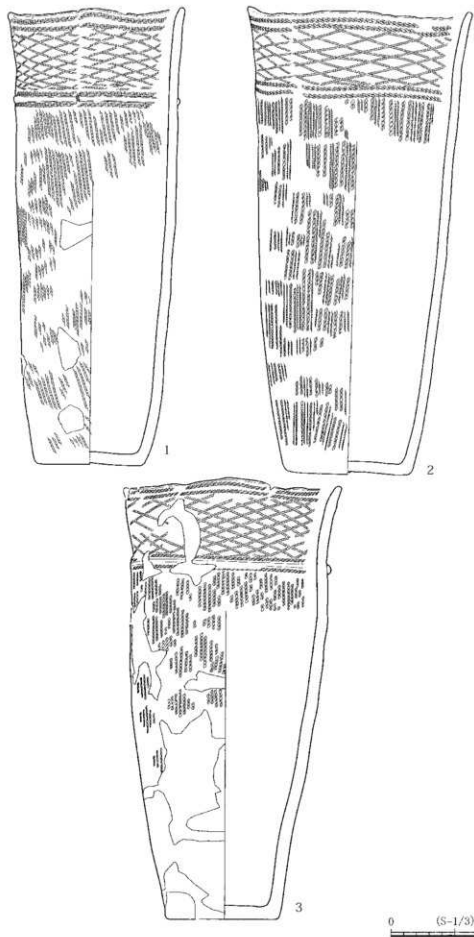
36図 縄文土器 (30)



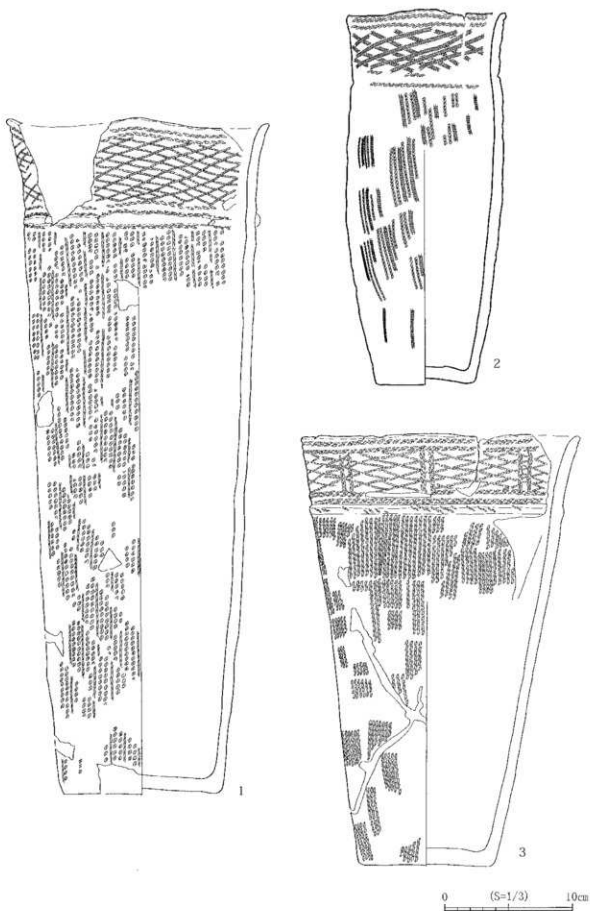
37図 縄文土器 (31)



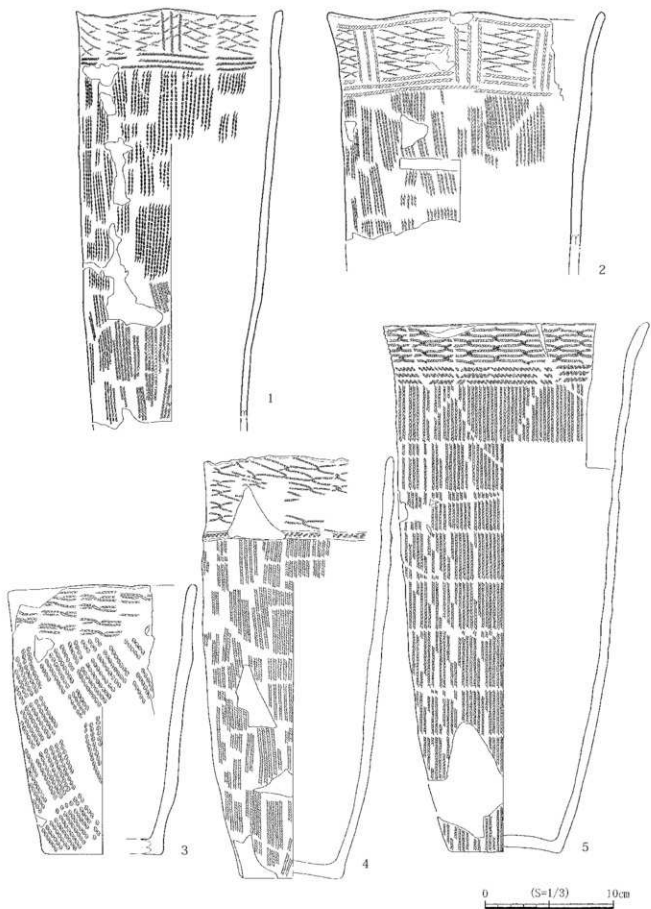
38図 縄文土器 (32)



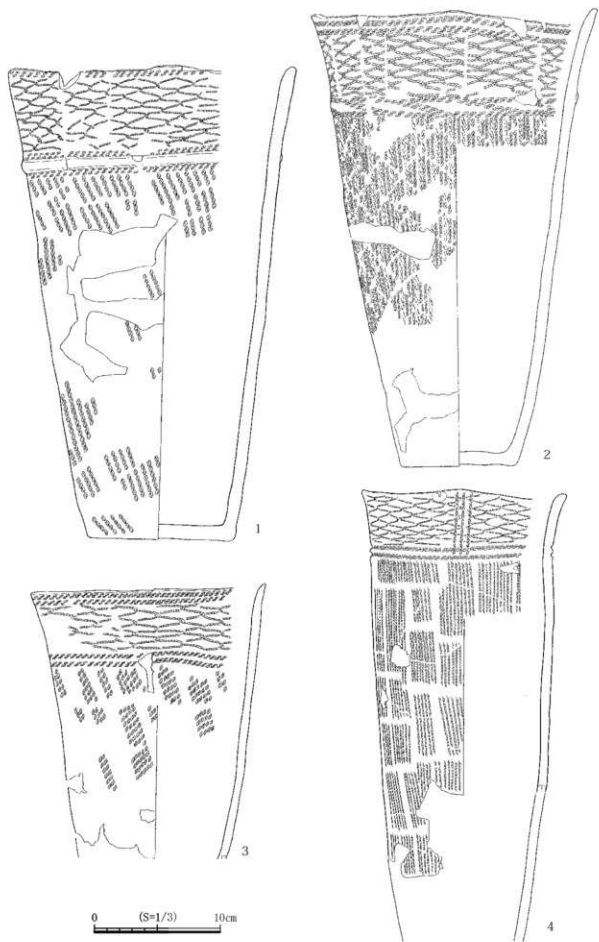
39図 縄文土器 (33)



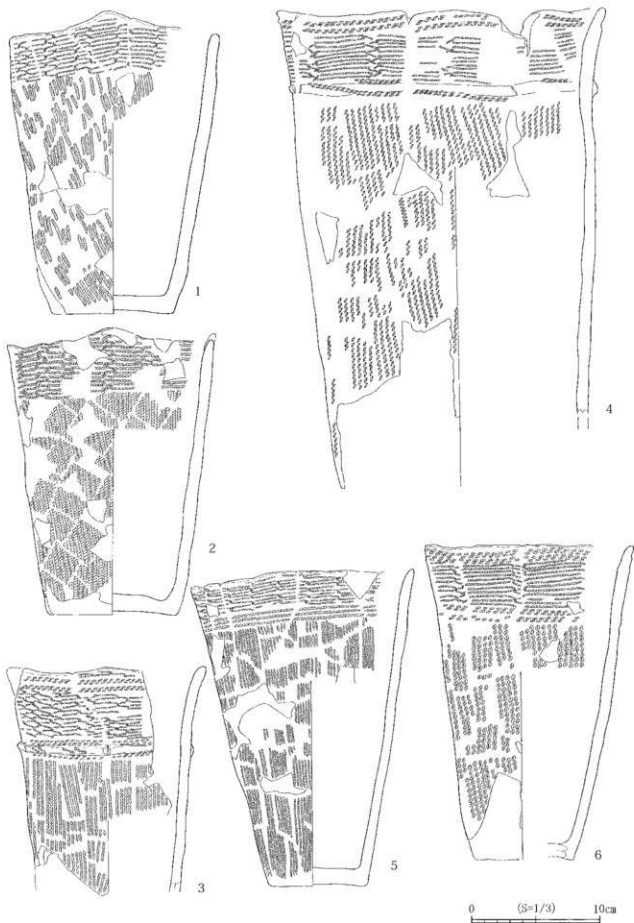
40図 縄文土器 (34)



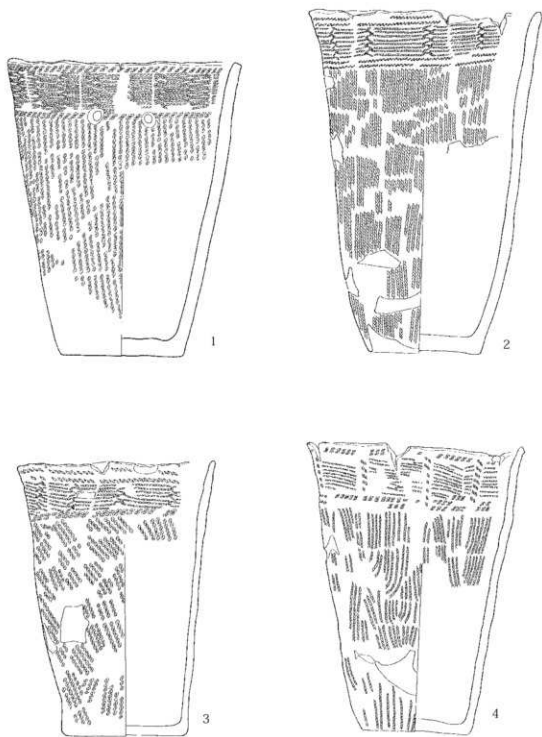
41図 縄文土器 (35)



42図 縄文土器 (36)



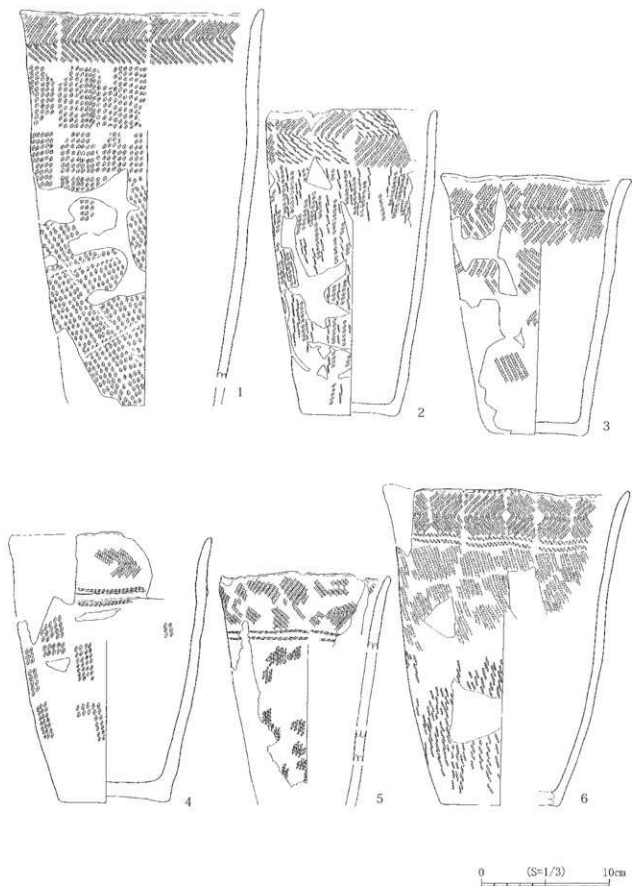
43図 縄文土器 (37)



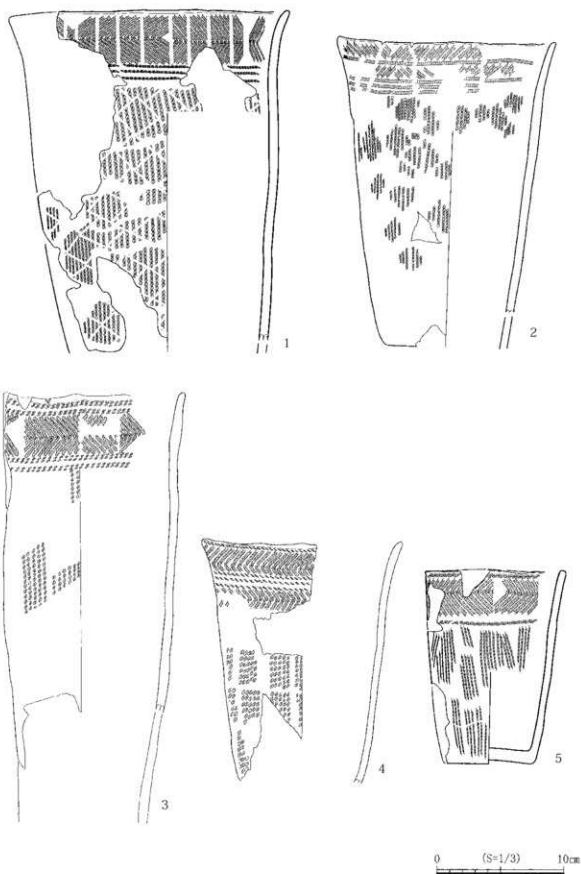
44図 縄文土器 (38)



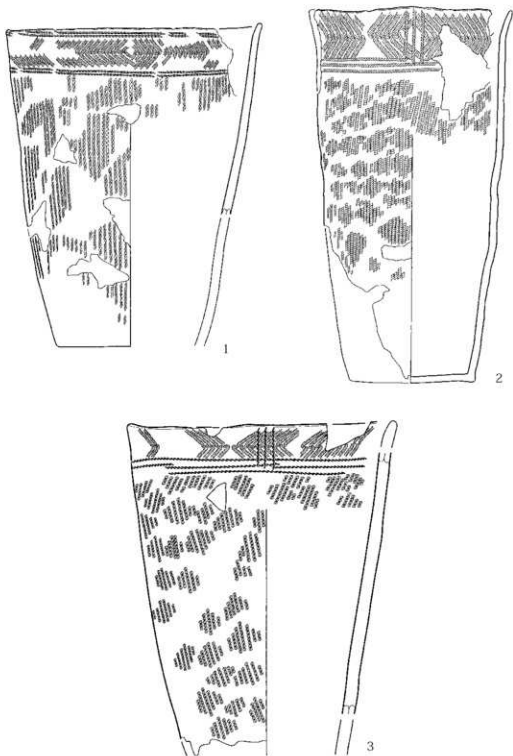
45図 縄文土器 (39)



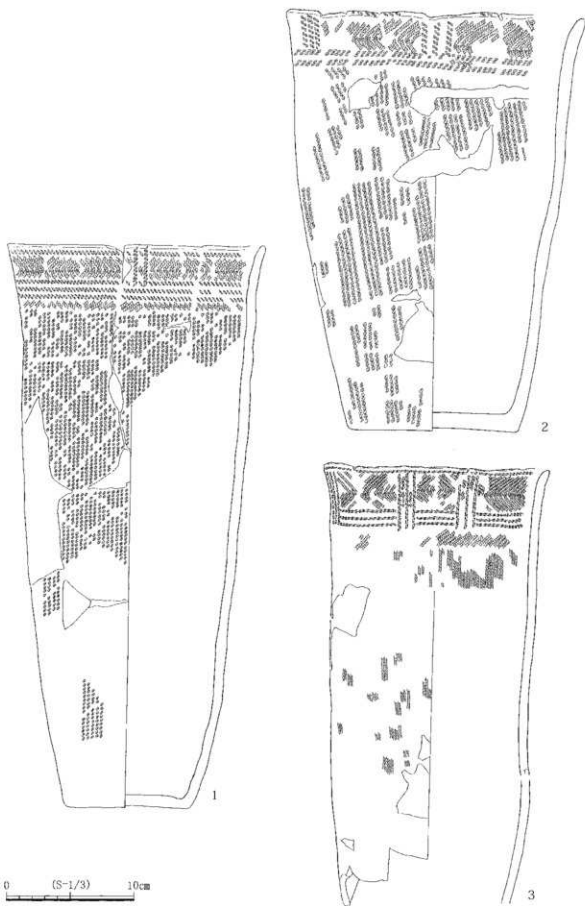
46図 縄文土器 (40)



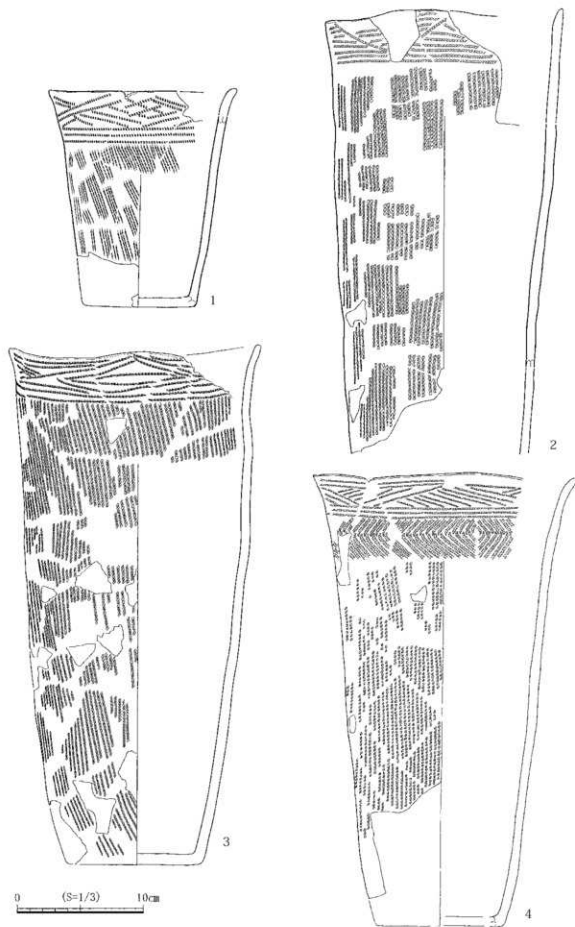
47図 縄文土器 (41)



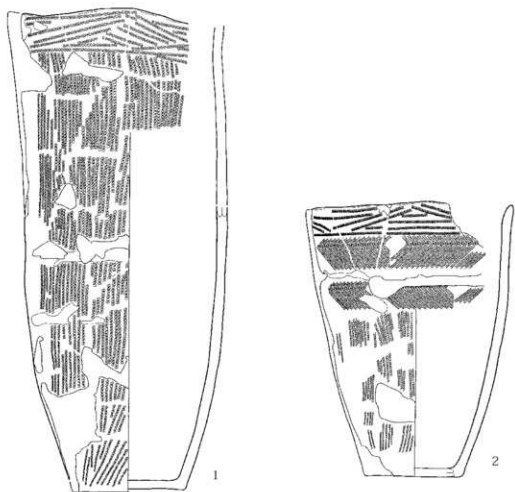
48図 縄文土器 (42)



49図 縄文土器 (43)



50図 縄文土器 (44)



0 (S=1/3) 10cm

51図 縄文土器 (45)